

人間科学部
学修ガイドブック

人間科学部学修ガイドブック

2019

SCHOOL of HUMAN SCIENCES

'19
専修大学

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン 「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「**社会に対する報恩奉仕**」を、現代的に捉え直し、「**社会知性（Socio-Intelligence）の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

2019 人間科学部学修ガイドブック

平成31年4月1日

編集・発行 専修大学人間科学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-7191（ダイヤルイン）

人 間 科 学 部

学修ガイドブック

2019

平成31年度

専 修 大 学

専修大学学則

第1章 大学の目的および使命

第1条 本大学は、社会現象に対する自由でとらわれな
い研究を基礎とし、旧い権威や強力に対してあくまで
批判的であることを精神とし、人間の値打を尊重する
平和的な良心と民主的な訓練を身につけた若い日本人
を創りあげることが目的としている。

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは、みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。
卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み、紛失す
ることのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部の心理学科、社会学科がそれぞれに規定する所定の卒業要件単位を学則で定める在籍期間中に修得することによって、幅広い教養と豊かな人間性を有し、専門分野に関しては、実験・観察・調査を軸として、科学的・実証的に人間の理解を目指し、人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び、主体的に社会を支え活動できる能力を養い、高度な専門性を身に付けた者に対し、心理学科では学士（心理学）の、社会学科では学士（社会学）の学位を授与します。

心理学科

- (1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。（知識・理解、関心・意欲・態度）
- (2) 心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得している。（知識・理解）
- (3) 人間行動の理解のために、研究機器の利用方法をはじめとしてさまざまな実証的研究の手法を修得している。（技能・表現）
- (4) 現代心理学の持つ批判的、分析的かつ主体的な人間行動理解に基づき、知見や技能を活用することができる。（関心・意欲・態度）
- (5) 未解決の問題を発見し、それを適切な方法で解決することができる。（思考・判断）

社会学科

- (1) 社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し、個人的な問題が社会の諸制度とのかかわりの中で生じていることを理解できる。（知識・理解）
- (2) 社会的行為と制度の理解のために、社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得するとともに、自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができる。（技能・表現）
- (3) 諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者理解を深めることができる。（関心・意欲・態度）
- (4) 社会における実践的な課題について、上記の能力を総合的に駆使して思考し、分析することができる。（思考・判断）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学部では、教育研究上の目的及び養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の4つの科目群から構成することとし、教育課程全体の体系的・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ります。

心理学科

(1) 教育課程

- ・「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成しています。
- ・「転換・導入科目」は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学ぶとともに、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身に付けることとしています。
- ・「教養科目」及び「外国語科目」は、学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしています。
- ・「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ①人類の文化や社会、自然など共通に求められる幅広い知識の修得及び様々な角度から物事を見ることができる能力を修得するための科目を配置します。
- ②心理学研究の基礎となる理論や知識の修得とともに、研究機器利用をはじめとするさまざまな実証的研究の手法を修得するための科目を配置します。
- ③人間行動を批判的、分析的に理解する知識を修得するとともに、現代心理学の知見や技能を主体的に活用する能力を修得するための科目を配置します。
- ④課題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析するとともに、修得した知識・能力を活用し、問題を解決する能力を修得するための科目を配置します。

(3) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ①学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の観点を踏まえた編成としており、特に、初年次教育は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる内容とし、キャリア教育は、卒業後も自律・自立して学習できる観点を踏まえた内容としています。
- ②知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容

は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。

- ③学修者の能動的な学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、問題解決能力や批判的思考力を養うために、教室外での共同学習、ケーススタディなどによる発見学習、調査学習、体験学習を導入します。
- ④教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもとに策定され、かつ、教育課程の編成において、体系性と順次性が明確であることを示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入します。
- ⑤年次やsemesterごとの教育内容の全体が俯瞰でき、時系列に沿った到達目標が理解できることで、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、卒業後の進路を踏まえた典型的な履修モデルを整備するとともに、CAP制の意義を踏まえ履修登録単位数を明示することとしています。

(4) 教育内容・方法

①転換・導入科目

「転換・導入科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけられています。高等学校段階の教育と大学での教育を接続させるための初年次教育としての目的を重視して、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を配置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身に付けます。

また、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぼうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身に付けるために、中央教育審議会答申などで指摘されている「学士力」を意識し、「データ分析入門」、「キャリア入門」、「あなたと自然科学」など、7科目12単位を配置しています。

②教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」から構成しています。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的としています。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身に付けることを目的としています。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものです。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなども養成する目的を有しています。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性の理解を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、93科目198単位を配置しています。

③外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな

問題に取り組む力を身に付けることを目的としています。英語のうち、1年次及び2年次に履修する、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力の養成を目的とした科目は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいた習熟度別の少人数クラスを編成し、レベル別の授業とすることで、能力の向上を目指しています。英語以外の外国語については、多くの学生が初めて学ぶ科目であることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階での到達目標を明確にしたレベル別の授業としています。また、異文化・多文化への理解を深めるために、講義形式で世界の諸地域の言語とその背景となる文化を学ぶ科目を含めて、181科目263単位を配置しています。

④専門科目

- ・専門科目では、心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得するために、必修科目「心理学概論」「臨床心理学概論」をはじめ、選択必修科目、選択科目を通じて、心理学を学ぶすべての学生が身に付けるべき基本的な素養を身に付けます。
- ・人間行動の理解のために、1年次及び2年次で少人数のグループで行う実験・実習科目「心理学基礎実験1（心理学実験）」、「心理学基礎実験2」を通してさまざまな実証的研究の手法を修得します。
- ・現代心理学の持つ批判的、分析的かつ主体的な人間行動理解のために「心理学講読1」「心理学講読2」を配置し、「心理学データ解析基礎1（心理学統計法）」「心理学データ解析基礎2」「心理学データ解析応用1」「心理学データ解析応用2」「心理学コンピュータ実習1」「心理学コンピュータ実習2」「心理実習1」「心理実習2」を通して知見や技能を主体的に身に付けます。
- ・3年次、4年次の「心理学実験演習1」「心理学実験演習2」により、未解決の問題を発見し、適切な方法によって解決することを学修します。全員が少人数でのゼミ形式の授業に参加することで心を研究する学問知とフィールド知の双方向性を理解します。そして、学修の成果を、自らが行う研究活動として結実させ、論文にする卒業論文の作成を行い、心理学の知見や技能を社会に還元することのできる資質の涵養に努めます。

(5) 学修成果の評価方法

- ・教養科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・専門科目の必修科目「心理学概論」「臨床心理学概論」4単位、選択必修科目32単位、及び選択科目20単位の修得をもって、心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得していると評価します。
- ・専門科目の必修科目「心理学基礎実験1（心理学実験）」「心理学基礎実験2」6単位の修得をもって、実証的研究の手法を修得したと評価します。
- ・「心理学実験演習1」「心理学実験演習2」8単位及び卒業論文8単位の修得により、未解決の問題を発見し、適切な方法によって解決し、その知見や技能を活用することができると評価します。
- ・「卒業論文」を口述試験も行い評価することにより、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身に付いたことを総合的に評価します。

社会学科

(1) 教育課程

- ・「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成しています。
- ・「転換・導入科目」は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学ぶとともに、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身に付けることとしています。
- ・「教養科目」及び「外国語科目」は、学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしています。
- ・「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ①人類の文化や社会、自然など共通に求められる幅広い知識の修得及び様々な角度から物事を見ることができる能力を修得するための科目を配置します。
- ②社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた基礎的な理論の修得とともに、社会的行為と制度を理解することができる能力を修得するための科目を配置します。
- ③社会調査の技法を修得するとともに、理論的・実証的研究の方法を活用して、社会における実践的な課題を分析する能力を修得するための科目を配置します。
- ④課題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析するとともに、修得した知識・能力を活用し、問題を解決する能力を修得するための科目を配置します。

(3) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ①学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の観点を踏まえた編成としており、特に、初年次教育は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できる内容とし、キャリア教育は、卒業後も自律・自立して学習できる観点を踏まえた内容としています。
- ②知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。
- ③学修者の能動的な学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、問題解決能力や批判的思考力を養うために、教室外での共同学習、ケーススタディなどによる発見学習、調査学習、体験学習を導入します。
- ④教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもとに策定され、かつ、教育課程の編成において、体系性と順次性が明確であることを

示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入します。

- ⑤年次やsemesterごとの教育内容の全体が俯瞰でき、時系列に沿った到達目標が理解できることで、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、卒業後の進路を踏まえた典型的な履修モデルを整備するとともに、CAP制の意義を踏まえ履修登録単位数を明示することとしています。

(4) 教育内容・方法

①転換・導入科目

「転換・導入科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけられています。高等学校段階の教育と大学での教育を接続させるための初年次教育としての目的を重視して、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を配置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身に付けます。

また、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身に付けるために、中央教育審議会答申などで指摘されている「学士力」を意識し、「データ分析入門」、「キャリア入門」、「あなたと自然科学」など、8科目14単位を配置しています。

②教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」から構成しています。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的としています。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身に付けることを目的としています。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものです。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなども養成する目的を有しています。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性の理解を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、93科目198単位を配置しています。

③外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身に付けることを目的としています。英語のうち、1年次及び2年次に履修する、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力の養成を目的とした科目は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいた習熟度別の少人数クラスを編成し、レベル別の授業とすることで、能力の向上を目指しています。英語以外の外国語については、多くの学生が初めて学ぶ科目であることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階での到達目標を明確にしたレベル別の授業としています。また、異文化・多文化への理解を深めるために、講義形式で世界の諸地域の言語とその背景となる文

化を学ぶ科目を含めて、181科目263単位を配置しています。

④専門科目

- ・専門科目では、社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得するため、社会学の専門教育課程編成を構成する三つの系（文化・システム系、生活・福祉系、地域・エリアスタディーズ系）に即しつつ、実証的かつ体系的な学修、研究指導をおこないます。そうした方針のもと、「社会調査実習A」、「文献研究A」、「専門ゼミナールA・B」と卒業論文は必修科目とします。また、配当年次については、科目間の関係や履修の順序などに配慮して体系的な履修が可能となるように配当しています。
- ・社会的行為や制度について科学的・実証的に研究する方法を修得するため、社会調査の実習授業（「社会調査実習A・B」）を少人数指導の形式（10人程度を目安とするクラス）で開講します。「社会調査実習A・B」では、自らの思考を文書によって伝える技術・表現を育成するため、調査の成果を報告書として刊行します。
- ・社会調査に主体的、能動的にのぞむのにふさわしい知識や能力を身に付けるため、社会調査法科目群（「社会調査の基礎」、「調査設計と実施方法」、「データ分析法実習」、「統計学実習」、「多変量解析法実習」、「質的分析法」、「社会調査実習A」）を体系的に配置します。
- ・社会学の理論や方法論についての理解を深め、かつ、その知識を文書や口頭で伝え、議論する力を育成するため、文献の精読やディスカッションを中心とする演習授業（「文献研究A・B」）を少人数指導の形式（10人程度を目安とするクラス）で開講します。
- ・諸社会が有する文化や価値の多様性への関心を高めるため、年度ごとに3つのテーマを設定し、そのテーマに精通した学者や実務家を学外から講師として招いた講義科目（「社会学特殊講義A・B・C」または「社会学特殊講義D・E・F」）を開講します。
- ・専門科目を中心とする教育内容を、総合的に駆使して、社会における実践的な課題について思考し、分析することができる能力を修得するため、「専門ゼミナールA・B」を少人数指導の形式（10人程度を目安とするクラス）で開講します。社会学の全学生は、2年次の後期に、各自の関心や問題意識にもとづき所属ゼミナール（担当教員）の選択を行ない、3年次の「専門ゼミナールA」と4年次の「専門ゼミナールB」において、同じ教員による一貫した指導を受けながら、各自が主体的に研究に取り組み、卒業論文を執筆します（必修）。

(5) 学修成果の評価方法

- ・教養科目から8単位、及び専門科目の選択科目22単位の修得をもって、諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者理解を深めることができると評価します。
- ・専門科目の必修科目「社会学原論1・2」4単位及び選択必修科目28単位の修得をもって、社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し、個人的な問題が社会の諸制度との関わりの中で生じていることを理解できると評価します。
- ・専門科目の必修科目「社会調査の基礎」、「調査設計と実施方法」、「データ分析法実習」、「社会調査実習A」、「文献研究A」12単位の修得をもって、社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得するとともに、自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができると評価します。
- ・専門科目の必修科目「専門ゼミナールA・B」8単位、及び「卒業論文」8単位の修得を

もって、社会における実践的な課題について思考し、分析することができると評価します。

- ・「卒業論文」を複数教員による査読と口述試験によって評価することにより、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身に付いたことを総合的に評価します。



人間科学部長
嶋根克己

はじめに

新入生の皆さん、人間科学部によろこそ。それぞれにさまざまな想いを胸に専修大学の門をくぐったことでしょうか。これから何を学べるのか、どのような人たちと出会えるのか、どのような生活が待っているのか、それを決めるのはあなた自身です。

小学校の6年間、中学校の3年間、高等学校の3年間に加えて、大学は16年間にわたる長い学校教育の総仕上げです。皆さんは大学を卒業すれば、「社会人」として自立した生活を送らなければなりません。ほとんどの「学生」（大学で学ぶ人のことを「学生」と呼びます。「生徒」は中等教育までの呼称です。）にとって大学の4年間は「大人」になるための最後の学校教育の時間です。この間に何をどう学ぶかによって、今後の長い人生の基礎が形成されるといっても過言ではありません。

大学での学びが、高校時代までと全く異なっているのは、何をどう学ぶかは皆さん自身が決めるという点です。人間科学部の心理学科と社会学科において最低限学ばなければならないこと、しなければならないことは定められておりますが、カリキュラムや授業の選択は自分自身が決定しなければなりません。

その意味でこの『学修ガイドブック』は4年間の学びについて定めたルールブックであり、使用マニュアルとなっております。皆さんはスマートフォンを購入したとき、それで何をしなければならないのか、何ができるのかを知るために使用マニュアルを熟読することでしょう。同じように人間科学部で充実した時間を過ごすためには、この『学修ガイドブック』は必ず目を通しておかなければならないことから、ぜひとも知っておいてもらいたいことがらなどが、簡潔に記されております。自らの学びの選択をひとまかせにするのではなく、自分自身の問題解決に向けたカリキュラムを自分で構成し、長い人生の間、けっして古びることのない学問の方法を身につけていただきたいと思います。

現在ある知識はやがて時代遅れになるかもしれません。しかしそれらをもとに試行錯誤しながら自分なりの解決方法を探し出そうとした経験は、いつまでも輝きを失いません。そして人間科学部の心理学科・社会学科には30人ものエキスパート（専任教員）がいつでもアドバイスできる体制を整えております。

皆さん、ぜひとも専修大学人間科学部を擦り切れるまで使い倒して卒業して行ってください。「いま自分に何ができないかを嘆くよりも、これから何ができるようになりたいのかを考えよう。」そんな体験を人間科学部で積み重ねてください。

皆さんが自信に満ちた人生を送るための基盤を人間科学部での学びを通じて形成していくことを心より祈念しております。

目 次

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	3
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	4
はじめに	9
第1章 卒業までに何を学ぶか	
I 大学の授業科目	17
1 専修大学の学士課程教育	17
2 専修大学の科目ナンバリング	18
3 全学公開科目	21
4 授業科目の種類	22
5 単位制と履修年次指定制	22
6 単位の考え方と算定基準	22
II 大学卒業の要件と科目の履修	23
1 大学卒業の要件	23
2 履修計画の立て方	24
3 履修上限単位数	24
4 科目の再履修	24
III 科目の履修登録	26
IV 試験と成績評価	27
1 試験の種類	27
2 受験上の注意, その他	28
3 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価	29
4 卒業論文	29
5 成績評価と通知	29
V 卒業	32
1 卒業見込証明書の発行	32
2 卒業発表	32
第2章 転換・導入科目と教養科目, 外国語科目の学び方	
I 転換・導入科目	35
専修大学入門科目	35
専門入門ゼミナール	36
キャリア基礎科目	36
情報リテラシー科目	37
基礎自然科学	38

保健体育基礎科目	39
II 教養科目	41
人文科学基礎科目	41
社会科学基礎科目	43
自然科学系科目	44
融合領域科目	46
保健体育系科目	47
III 外国語科目	49
英語	49
英語以外の外国語	54
海外語学研修	57
IV 外国人留学生の特例履修科目	61
第3章 専門科目の学び方	
専門科目では何を学ぶか	65
心理学科	
I 心理学科の学生のために	66
1 心理学科の特色	66
2 1年次でどう学ぶか	66
II 卒業要件と科目の履修方法	67
1 卒業要件	67
2 科目の履修方法	68
人間科学部心理学科 転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧	75
人間科学部心理学科(外国人留学生)転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧	77
人間科学部心理学科専門科目一覧	79
社会学科	
I 社会学科の学生のために	83
1 社会学科の特色	83
2 1年次でどう学ぶか	83
II 卒業要件と科目の履修方法	84
1 卒業要件	84
2 科目の履修方法	85
人間科学部社会学科 転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧	97
人間科学部社会学科(外国人留学生)転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧	99
人間科学部社会学科専門科目一覧	101
人間科学部専門科目一覧	105

第4章 資格課程について

I 教職課程	109
II 司書・司書教諭・学校司書課程	110
III 学芸員課程	112
IV 大学院教職課程	112
V 科目等履修生	113

付 録

I 専修大学履修規程	117
I 専修大学定期試験規程	120
II 定期試験における不正行為者処分規程	124

第1章

卒業までに何を学ぶか

- I 大学の授業科目
- II 大学卒業の要件と科目の履修
- III 科目の履修登録
- IV 試験と成績評価
- V 卒 業

I 大学の授業科目

1. 専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんが、これから4年間専修大学に在学し、各学部学科で定められている授業科目の単位を修得すると、それぞれの専攻分野を付した「学士」となって卒業し、「社会への第一歩」を踏み出します。

この入学から「社会への第一歩」を繋ぐ「学び」の道のりを「学士課程」と呼んでいます。

しかしながら、中学や高校の勉強と大学での「学び」は同じではありません。大学では、一人ひとりが自分で「学び」を選択し、自ら研鑽することが求められます。大学における「学び」は、受動的、画一的な「学習」ではなく、能動的、自律的な「学修」なのです。

そこで専修大学の「学士課程教育」では、まず、みなさんが大学での「学び」や生活にスムーズに適応し、大学および社会で求められる必要不可欠な基礎的知識と技能を修得できるよう転換・導入科目を設置しています。例えば、少人数の専修大学入門ゼミナールは全ての学部の学生が履修する科目です。この科目で、専修大学の学生としての自覚と心構えを得るでしょう。

この転換・導入科目に加えて、専修大学の学士課程教育は、教養科目、外国語科目および専門科目の4つの科目群で構成されています。転換・導入科目を土台に、教育課程全体の体系性・順次性が確保されるとともに、かつ教養教育と専門教育の有機的連携が図られています。2019年度からは科目ナンバリングも導入され、科目の体系性・順次性がよりわかりやすくなりました。

教養科目には、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」および「保健体育系科目」の5つの科目群があり、興味を持った分野をより深く学べるようになっています。今日のかつ学際的・融合的な科目も用意されています。外国語科目は、「英語」、「英語以外の外国語」、「海外語学研修」の3つの科目群で構成されています。外国語の重要性はみなさんも十分に理解しているでしょう。専門科目は、それぞれの専攻分野について、基礎から応用へと段階的に学修できる科目配置となっています。専修大学の多様な科目を履修することで、各自の興味や関心を深化、発展させたり、専門分野を多角的に考察したりすることで、社会に通用する力を確実につけることができます。

つまり、専修大学の学士課程教育を通じて、どの学部にも所属していても、社会に出てから必要な基礎的知識や技能を学び、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを身につけることができます。専修大学の学士課程教育は、一人ひとりの「学修」が、将来の持続的成長につながるよう、様々に工夫されています。

みなさんの将来には、無限の夢と希望が満ち溢れています。しかし内外の環境は急速に変化しており、それらに適時適切な対応をしつつ、世界に飛翔するためには、国際的通用性を備え、先見性・創造性・独創性に富み、積極的に社会を支え、社会を改善する意欲・能力が肝要です。「学び」は一瞬の夢ではありません。生涯続く険しい道のりです。高い志と気概を失うことなく、21世紀を生き抜くために、専修大学での学びを通じて人生の礎を築いてください。

2. 専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。専修大学では科目ナンバリングを、6桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」で表すこととし、2019年度から全ての学部で導入しています。コースコードを用いることで、学びたい分野で開講されている科目とそのレベルを参照することができます。学びたい科目の詳細な授業内容は講義要項（シラバス）で確認することができますので、みなさんの興味関心を最大限に活かした、より体系的な履修計画を立てることができます。

なお、コースコードは講義要項（シラバス）に表示されるほか、単位修得学業成績証明書（和文・英文）および二種複合証明書に記載されます。コースコードは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものと付されます。

1. 「科目ナンバリング」の意義

みなさんが、履修する授業科目を検討する際に、授業科目の分類、標準的な学修の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

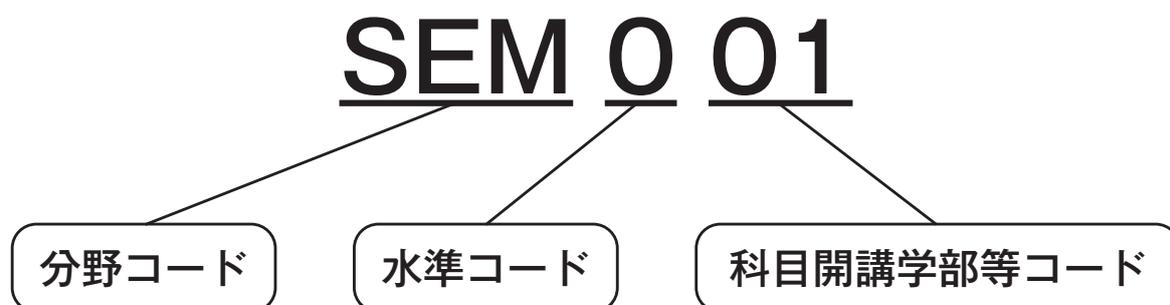
また、コードの構成は全学部で統一されているため、全学公開科目のように他学部で開講されている科目を履修する際に、学問分野や科目の水準など、開講科目の位置づけを理解することが容易になるので、主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

さらに、コースコードは学外にも公開されますので、国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や、在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する場合の単位互換等を円滑に進められることが期待できます。

2. 「コースコード」の構成

「コースコード」は、「①分野コード（科目の学問分野を表す）」「②水準コード（科目のレベル、水準や難易度を表す）」「③科目開講学部等コード（開講学部や科目区分等）」から構成され、授業科目毎にコードが付されます。

例えば、転換・導入科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合、次のようなコースコードが付されます。



<各コードの意味>

①分野コード 専修大学で開講されている科目を111の分野に分け、3桁のアルファベットで表します。

科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード
会計学	ACC	ドイツ語	GER	経営学	MAN
アラビア語	ARA	地理学一般	GGR	数理科学	MAT
考古学	ARC	情報学一般	GIN	学芸員課程	MCP
芸術一般	ARL	心理学一般	GPS	経営情報学	MNI
地域研究	ARS	ギリシャ語	GRK	金融・ファイナンス	MOF
美学・芸術諸学	ASA	アジア史・アフリカ史	HAA	新領域法学	NFL
文化財科学・博物館学	CAS	ヨーロッパ史・アメリカ史	HEA	自然科学一般	NSC
中国語	CHI	人文学一般	HMN	海外語学研修	OSS
中国文学	CHL	思想史	HOT	財政・公共経済	PFM
民法法学	CIL	史学一般	HSG	哲学一般	PHE
臨床心理学	CLP	人文地理学	HUG	自然地理学	PHG
商学	CME	人間情報学	HUI	計算基盤	POI
キャリア科目	CRE	人体病理学	HUP	政治学	POL
刑事法学	CRL	情報通信技術	ICT	精神神経科学	PSS
文化人類学・民俗学	CUA	国際開発問題	IDG	公法学	PUL
発達心理学	DEP	融合領域科目	IDS	地誌学	REG
デザイン学	DES	国際経済政策	IEP	宗教学	RES
経済史	ECH	国際法学	ILA	ロシア語	RUS
経済政策	ECP	インドネシア語	IND	社会科学一般	SCS
経済統計	ECS	国際関係論	INR	ゼミナール	SEM
理論経済学	ECT	情報システム	INS	空間情報科学	SIS
教育心理学	EDP	イタリア語	ITL	学校司書課程	SLP
教育工学	EDT	日本文化	JAC	特別支援教育	SNE
教育学	EDU	日本文学	JAL	社会学	SOC
英語一般	ENG	日本語教育	JLE	社会情報学	SOI
英語学	ENL	日本語学	JLI	社会法学	SOL
経済学・政治経済学	EPE	日本史	JPH	社会心理学	SOP
環境政策・環境社会システム	EPS	日本語	JPN	特殊講義	SPL
英語 読む・聴く	ERL	ジャーナリズム	JRN	スペイン語	SPN
英語 話す・書く	ESW	コリア語	KOR	スポーツ科学	SPS
倫理学	ETH	ラテン語	LAT	社会システム工学	SSE
実験心理学	EXP	司書課程	LCP	統計科学	STS
美術史	FAH	図書館情報学・人文社会情報学	LHS	SWP 科目	SWP
外国語教育	FLE	英米・英語圏文学	LIE	教職課程	TCP
フランス語	FRE	文学一般	LIG	卒業論文・卒業研究	THE
基礎法学	FUL	言語学	LIN	司書教諭課程	TLP
ジェンダー	GDE	論理学	LOG	世界の言語と文化・言語文化研究	WLC

- ②水準コード 学士課程4年間におけるそれぞれの科目の位置づけ（学修段階）に基づいて、1桁の数字で表します。科目の配当年次とは異なりますので、3・4年次に水準の低い科目を履修することも、1・2年次に高い水準の科目を履修することもあります。

水準コード	学 修 段 階
0	転換教育および導入教育を目的とした科目
1	学問分野の初級レベル，入門的位置づけの科目 (主に大学1年次を想定したレベル)
2	学問分野の中級レベル，基礎的位置づけの科目 (主に大学2年次を想定したレベル)
3	学問分野の上級レベル，発展的・応用的位置づけの科目 (主に大学3・4年次を想定したレベル)
4	学士課程で学修する最高水準の科目 (主に4年次を想定したレベル)

- ③科目開講学部等コード 科目を開講している学部等を2桁の数字で表します。

科目開講学部等コード	科 目 開 講 学 部 等
01	転換・導入，教養，外国語科目
02	資格課程科目
03	SWP科目
11	経済学部
12	法学部
13	経営学部
14	商学部
15	文学部
16	ネットワーク情報学部
17	人間科学部

3. 全学公開科目

(1) 全学公開科目とは

本学では、各学部・学科の教育方針に則して、多様な授業科目を開講している。このうち、「専門科目」は学部別に開講されているため、他学部で開講している専門科目に興味があっても、以前は履修することができなかった。

みなさんの多様な履修希望に応え、他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう、「学部間相互履修制度」が設けられた。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」である。

(2) 公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではない。どの科目を「全学公開科目」とするか、そして、何年次に担当するかは科目を開講している各学部で定める。

卒業するまでに、どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは、1年次のガイダンスおよびホームページで告知する。

(3) 講義内容

「全学公開科目」の講義内容を知りたい場合は、その科目を公開する学部のシラバスを閲覧する必要がある。各学部のシラバスはホームページで確認できる。

(4) 履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修者数の制限を行うことがある。このため、履修を希望する学生は、その科目担当者の履修許可を得なければならない。

履修手続・選考等の詳細は、ガイダンスで告知する。

(5) 修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定される。このため、心理学科は22単位、社会学科は20単位まで卒業要件単位に認定されることになる。

4. 授業科目の種類

大学で履修する科目は、必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など、次のとおり4種類に分類できる。

必修科目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では○印で示す）

選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では◎印で示す）

選択科目……適宜選択履修できる科目（授業科目一覧では△印で示す）

必修履修科目……指定された年次に必ず履修しなければならない科目

5. 単位制と履修年次指定制

1つの科目の授業を受け、試験に合格すると、その科目についての「単位」が与えられる。「単位」とは一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるもので、大学で開講している各授業科目には、科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められている。大学において学修する場合、すべて単位数によって勉強の達成度が計算され、卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また、一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければならない。これを履修年次指定制という。所定の年次で単位を修得することが、次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もある。履修方法は学科によって幾分ちがいががあるので注意すること。

6. 単位の考え方と算定基準

大学の授業は、講義、演習、実験、実習、実技などによって行われる。そして、単位とは、授業の受講に加え、事前の準備や事後の展開という学修の過程に要する時間を加味したもので、学修の量を数字で表した学修成果の指標といえる。なお、単位数は、それぞれの科目により異なる。

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることになる。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしている。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければならない。漫然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてほしい。

みなさんは、まずこの単位制度を充分理解して、学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に、かつコンスタントに修得していく努力が求められる。

Ⅱ 大学卒業の要件と科目の履修

1. 大学卒業の要件

大学を卒業するためには、(1)4年以上（休学の期間を除いて8年以内）在学すること、(2)所定の科目の単位を修得すること、の2要件が必要である。卒業要件を充たした者は、学位記が授与され、心理学科は学士（心理学）、社会学科は学士（社会学）の学位が与えられる。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**という。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており、大学の決めた卒業要件単位を修得しなければその大学を卒業することはできない。

本学における人間科学部の卒業要件単位は、各学科とも下記のとおりであるが、内訳条件については第2章「転換・導入科目と教養科目、外国語科目の学び方」および第3章「専門科目の学び方」の各学科の条件を参照のこと。

卒業要件単位

学 科	卒 業 要 件 単 位					
	転換 導入	教養	外国語	専門	自由 選択	合計
心理	2	8	8	84	22	124
心理（外留）	2	8	8	84	22	124
社会	6	8	8	82	20	124
社会（外留）	6	8	8	82	20	124

2. 履修計画の立て方

それぞれの個性と志向に応じて、4年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で、各年度の具体的な履修計画を立てなくてはならない。

もちろん大学生活全体の大枠を考えるとと言っても、入学当初から上級年次の選択科目のどれとどれを履修するかというようなことは決めておくことはできない。学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断もできるようになるからである。しかし、各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかはあらかじめ考えておく必要がある。この際下級年次で比較的多く、上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明である。とくに4年次には卒業論文に取り組み、就職活動をしたりしなくてはならないので、あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよい。このように計画することによって上級年次になってから、余裕をもって広い範囲から選択科目を選び、また自主的な学修を深くすすめることができるようになる。

科目の選択に際して、転換・導入科目と教養科目、外国語科目については、第2章の「転換・導入科目と教養科目、外国語科目の学び方」をよく読み、また、専門科目については、学科によって異なるので、第3章の「専門科目の学び方」をよく読んで研究する必要がある。

それでは、履修計画を立てる際の注意事項を次にあげておく。

- ① 年度はじめに行われる履修ガイダンスに出席し、シラバスを活用して各自の履修計画を考える。
- ② 科目の年次配当を十分考慮し、後に悔いを残さないようにする。
(原則として配当年次以外の履修は認められていない。)
- ③ 各年次ごとに相応の単位を修得するようにする。
- ④ 必修科目、選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得するようにする。
- ⑤ 卒業要件単位は、必要な最低修得単位であるから実際にはこれを上回る単位数を計上して計画をたてる。

3. 履修上限単位数

人間科学部では、履修できる上限の単位数が定められており、各年次一律に48単位が上限となる。海外語学短期研修及び資格課程科目については、年間履修上限単位数には含めない。また、履修上限単位数には、再履修科目も含める。

4. 科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得しなければならない。万一やむを得ない理由で必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には、原則として次の年次にそれらの科目を再履修することになる。もちろん、次の年次に進級すると、その年次に配当さ

れている必修科目や選択必修科目があり，それらと再履修科目が時間割の上で重複し，両方を同時に履修できない場合がある。もし，そのような場合は，まず**再履修科目を優先して履修しなければならない**。したがって必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけるように努力しなければならない。ただし，この原則は選択科目にはあてはまらず，もちろん，自らの判断で再履修しても良い。不明な点は，各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課の窓口にお問い合わせること。

Ⅲ 科目の履修登録

科目の登録は、各自が考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段である。各自、学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って、その年度に履修する科目を選択し、定められた期日までに登録しなければならない。これを本学では履修登録と呼んでいる。履修登録に際しての注意事項を次にあげておくので厳守し、誤りのないように手続きして欲しい。

- ① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合、その年度の授業科目の履修は認められず、単位は修得できない。
- ② 各年次の時間割の配付および履修登録手続きに関する説明は、ガイダンス時に行う。ガイダンスでは、各種登録、重要事項の指示等を行うので必ず出席すること。
- ③ 一部の科目については、受講人員に制限があるので、登録前に希望する科目の選択カードを受け取っておかなければならない。選択カードの交付日時、場所、方法等については、掲示またはガイダンスで知らせる。

また、その他の科目でも、初回授業時に選抜（抽選）や履修制限を行う場合もあるので、必ずガイダンスで説明を受け、履修を希望する科目の初回授業に出席すること。

- ④ 登録後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。
- ⑤ ゼミナールおよび心理学実験演習1は原則として、履修する前の年の10～11月頃、テーマ、募集人員、選考方法などについてのガイダンスがあり、選考のうえ、各ゼミナールおよび心理学研究法の履修者が内定されるので掲示に注意する。
- ⑥ 同一曜日・同一時限においては、1科目しか登録できない。ただし、前期科目、後期科目のように期間の異なるものは、この限りでない。
- ⑦ 前年度までに単位を修得した科目は、指定された科目を除いて再度履修することはできない。
- ⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は、それに従って科目を履修しなければならない。
- ⑨ 同じ名称をもつ科目は、指定された特定の科目を除いて2つ以上は履修できない。なお、心理学基礎実験2および心理学実験演習1・2は2時限続きの科目であるから、2時限続けて履修しなくてはならない。
- ⑩ 必修科目は、指定された年次で必ず履修しなければならない。なお、当該年度に修得できなかった場合は、翌年度必ず再履修しなければならない。
- ⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる。（一部の科目を除く）

IV 試験と成績評価

試験は、日常の学修成果を問うものである。したがって試験には、厳正な態度で臨まなければならない。遅刻はもちろんのこと、自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意しなければならない。

定期試験は、定期試験規程（p.120を参照）に基づいて実施されるので、規程を熟知し、さらに次の事項についても十分理解しておかなければならない。 ※実施の時期は変更することがある。

1. 試験の種類

(1) 前期試験

前期のみの半期授業科目について7月から8月の間に実施する。

(2) 後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について1月から2月の間に実施する。

(3) 追試験

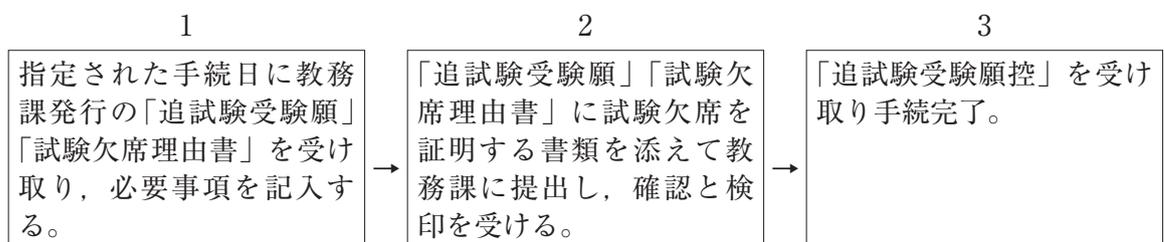
前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、当該授業科目について前期追試験を8月、後期追試験を2月から3月の間に実施する。

なお、本学では、「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう、厳しい基準を設けている。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は、「やむを得ない理由」とは見なされないので注意すること。

① 追試験受験手続

追試験の受験希望者は、指定された期間に追試験受験願と、試験欠席理由を証明する書類を教務課人間科学部に提出し、受験許可を得なければならない。

◎追試験受験手続きの手順



② やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は、次のとおりである。

- | | |
|-------|---------------|
| ・教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| ・就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |

・公式試合	公式試合参加を証明するもの
・天災その他の災害	被災を証明するもの
・二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・本人の病気又は怪我	医師の診断書
・交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

2. 受験上の注意, その他

(1) 受験について

受験上の注意については、定期試験規程にも定められているが、さらに次の点にも十分注意を払う必要がある。

- ① 同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので、自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し、間違いのないようにすること。
- ② 同一科目でも、試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。
- ③ 試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。
- ④ 答案用紙の再交付は行わない。
- ⑤ 試験場内での私語は、不正行為と見なされるので絶対にしないこと。
また、廊下等での私語は、受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

(2) 定期試験時間割

定期試験時間は、授業時間とは異なり、原則として60分である。定期試験時間割は、試験実施前に人間科学部掲示板に掲示する。ただし、資格課程科目の試験時間割は、試験実施前に教務課資格課程掲示板に掲示する。

【注意】

学生証不携帯者は、いかなる理由があっても受験できない。

ただし、当該試験開始時刻までに教務課窓口申し出た場合は、当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができる。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は、所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがある。

試験当日は、不測の事態に備えて試験開始30分前には登校し、学生証の携帯と試験場を必ず確認すること。

なお、遅刻をした場合に受験が認められるのは、試験開始後20分までに試験場に到着した場合である。

3. 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては平常点で成績評価が行われるため、前期試験、後期試験は実施されず、したがって追試験も実施されないものがある。

平常点で評価される科目の場合、各科目の授業期間を通しての、授業への貢献度や授業での発表内容、レポート、授業の中で実施されるテスト等（注1）によって総合的に成績評価が行われる。

注1）授業の中で実施されるテストは、期末テスト、授業内テスト、中間テスト、小テスト等と呼ばれ、定期試験規程に定められた試験ではないため、追試験は実施されない。

ただし、これらのテストのうち、授業期間の最終週に実施されるものの中には、授業科目担当教員の判断によって、定期試験規程を準用して実施する場合もあり、その授業科目については、追試験が実施される（追試験を受験するためには、前述の追試験受験手続をとり、受験許可を得ることが必要になる）。

4. 卒業論文

卒業論文は、必修科目になっている。卒業論文は4年次で提出し、その審査に合格しなければならない。卒業論文は、専門的かつ自主的な研究の中核であり、指導教員の指導を受け、その指導による学修の成果として提出するものである。

(1) 論文提出

提出締切日は12月中旬とする。日時・場所など詳細については人間科学部掲示板で発表するので余裕のもてる時期から意識して確認し、期限を厳守すること。

(2) 論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従うこと。

(3) 提出時に携行すべきもの

学生証、卒業論文題目届（題目届、論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

(4) 口述試験

1月中旬～1月下旬

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

5. 成績評価と通知

(1) 成績評価の方法について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、口述試験、実技試験またはレポート）によって評価されるが、科目によっては、それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や、平

常点だけで評価する場合もある。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。また、授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（G P）を付与し、G P A（Grade Point Average）を算出する。

(2) 成績評価の区分

評 点	評 価	G P*	内 容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A +	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B +	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C +	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。
履修中止	W	－	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。

※ G P = グレードポイント

(3) G P A（Grade Point Average）制度について

G P A制度は、国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので、授業科目ごとの成績評価（本学ではSからFの8段階）に対してグレードポイント（G P）を付与し、この単位当たりの平均を算出した値がG P Aである。具体的な算出方法は次のとおり。

$$(Sの修得単位数 \times 4.0) + (A+の修得単位数 \times 3.5) + (Aの修得単位数 \times 3.0) + (B+の修得単位数 \times 2.5) + (Bの修得単位数 \times 2.0) + (C+の修得単位数 \times 1.5) + (Cの修得単位数 \times 1.0) + (Fの単位数 \times 0.0)$$

総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）

【G P Aに関する各種要件】

- ・ G P Aの算出対象となる科目は、卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など、自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。
- ・ 留学等で単位認定された科目（N）は、G P Aに算入されない。また、履修中止した科目についても、G P Aに算入されない。
- ・ 不合格（F）の科目を再度履修した場合、成績の合否にかかわらず、G P Aには最新の評価が反映される。
- ・ G P Aは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで表示とする。
- ・ 一度単位を修得した科目を、次学期以降に再度履修することはできない。

(4) 履修中止について

「履修中止」とは、履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる制度である。履修中止申請期間は、前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定される。日程、手続方法、その他詳細については、掲示で確認すること。

なお、履修中止申請をする際には、以下の点に注意すること。

- ①履修中止した授業科目については、当該授業への出席、定期試験の受験、単位の修得はできない。
- ②履修中止した授業科目の単位は、年間の履修上限単位に含まれる。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。
- ③履修中止した授業科目は、GPAに算入されない。
- ④履修中止により、当該年度の履修登録科目がなくなる場合は、履修中止申請が認められない。
- ⑤履修中止申請した授業科目について、履修中止申請期間後に申請を取り下げることができない。

(5) 成績通知について

学業成績の結果は点数で表し、9月（前期科目）および3月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は、大学のホームページを経由して閲覧することができる。

なお、就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には、修得した授業科目のみをSからCの評価で記載する。併せて、通算のGPAを記載する（GPAには不合格科目も算入される）。

※資格試験、留学などの結果により単位を認定する科目もある。この場合、認定される科目の評価は、点数などで表さず、すべて「認定」と記載する。

V 卒 業

1. 卒業見込証明書の発行

4年次は多くの学生にとって忙しい1年になる。卒業論文などで大学生活の総まとめをすると同時に、将来を考えて就職活動にも時間をさかなければならなくなるからである。就職活動に際し必要となる書類の1つに**卒業見込証明書**がある。これは、各自が3年次までに修得すべき最低限の単位をすでに修得し、4年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類である。企業は、採用の適否を判断する資料の1つとしてしばしば卒業見込証明書の提出を要求するので、3年次までにしかるべき卒業要件単位を修得し、大学からこの証明書を交付してもらい、それを企業などに提出しなければならない。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき、万全を期して履修計画を立て、勉学に精進してほしい。

卒業見込証明書の発行条件

発 行 年 次	発 行 条 件
4 年 次	3年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2. 卒業発表

- (1) 卒業が決定した学生については、2月下旬に第1次卒業決定者として掲示にて発表する。
- (2) 2月下旬に行われる追試験の結果、卒業が決定した学生については、3月中旬に第2次卒業決定者として、郵送にて発表する。
- (3) 卒業の可否は、必ず本人が登校し、掲示を確認すること。電話での問い合わせには一切応じない。

第2章

転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方

- I 転換・導入科目
- II 教養科目
- III 外国語科目
- IV 外国人留学生の特例履修科目

I 転換・導入科目

大学における学修では、高校までとは異なり、授業に出席して講義を聴くことや、教科書や参考文献などの基礎文献を読むことに加え、みなさんが、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組まなければなりません。そのためには、図書館を利用し、パソコンを駆使するなどして、勉学に必要な資料を収集すること、専攻によっては実態調査などのフィールドワークを行うこと、そして自ら学んだ内容をまとめて教員や他の学生に報告すること、その成果を論文やレポートにまとめることなど、みなさんの積極的な勉学が求められます。

転換・導入科目は、大学で学ぶための基本的な技法（アカデミックスキル）を身につける「専修大学入門科目」に加え、専門科目への導入としての役割を持つ「専門入門ゼミナール」を学ぶことで、アカデミックスキルを定着させます。さらに、大学、そして社会で求められる知識や技能・能力を伸ばし、教養科目、外国語科目、専門科目を学ぶための基本的な力を養う科目が置かれています。その力とは、情報を分析し活用する力（情報リテラシー科目）、自分の将来を切り開いていく力（キャリア基礎科目）、複合的な視点で観察し思考する力（基礎自然科学）、自分の健康を維持管理する力（保健体育基礎科目）です。これらは基礎となる科目ですから、1年次に履修することになります。

ここに設置されている科目を学ぶことで、みなさんはアカデミックスキルを修得しつつ、情報化・複雑化が進む社会で活躍するために必要とされるさまざまな力を伸ばすことができ、社会知性を身につけるのに役立つことでしょう。

(1) 専修大学入門科目

「専修大学入門科目」には、**専修大学入門ゼミナール**が設置されています。この科目は、みなさんが、高校生活から大学生活への転換を図り、専修大学の学生としての自覚を持ち、大学での学修に求められる基本的なスキル（技法）を身につけることが目標であり、具体的な目的として、以下の点をあげることができます。

第1に、大学で学ぶことの意味を充分理解することです。大学の学修では、みなさんが、将来的な展望も踏まえ、積極的に学修を深めることが求められます。

第2に、専修大学の学生としての自覚を持つために、専修大学の歴史を学ぶことです。みなさんが、これから4年間勉学に励む「学びの庭」である専修大学の成り立ちと歴史を支えた先人たちの努力の歩みを知ることは、専修大学で学修することの意義を理解することでもあります。

第3に、アカデミックスキルを修得することです。すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集するか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について学ぶこと、より具体的には「講義でのノートのとり

方」「資料の収集方法」「報告の方法（レジュメの作成方法）」「討論の方法」「論文・レポートの書き方」など、大学における学修の方法を修得することです。

専修大学入門ゼミナールは、みなさんが、これらの目的を達成できるよう、おおよそ1クラス25名前後の少人数により実施されます。

また、専修大学入門ゼミナールは、学修のための入門科目ということだけにとどまらず、みなさんが、新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った友人や教員との交流を通じて、大いに語り、励まし合いながら、大学生活を満喫するための基礎作りの場ともなります。

なお、心理学科において専修大学入門ゼミナールは、単位の修得は義務づけられていませんが、必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

(2) 専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは2年次以降学ぶ専門科目への導入的な役割を担っています。それぞれの学科で専門的に学ぶ学問には特有の考え方や研究の仕方があります。どのように文献を読み、どのように分析し、どのように研究したことを形にするかという一連の研究方法の基礎を学んでいきます。

この科目は、社会学科に設置されている必修科目です。

(3) キャリア基礎科目

「キャリア基礎科目」は、「大学生活において、さまざまな選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか、卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには、将来どのような働き方をしたいか、そのために大学4年間をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し、デザインすることが必要です。

そもそも、「キャリア (career)」の語源はラテン語で、「車道」や「車輪の跡 (轍)」などを意味しています。ですから、ある人のキャリアとは、その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から、キャリアは「個人のさまざまな立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方、「デザイン」は、「設計」とか「構想」を指します。したがって、キャリアをデザインするとは、「自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば、過去の人生を踏まえながら、未来の自分の生き方、働き方や学び方について深く考え、そのために現在自分は何をすべきかを認識すること、となります。

1年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで、将来に対する漠然とした不安感を取り除き、自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし、充実した大学生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。

キャリア基礎科目に設置される**キャリア入門**は、自分の性格や価値観を知ることから始め、社会の成り立ちや具体的な仕事の内容、働くことにまつわる法律などを知ること、さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが、主な目的です。そして、その後の学生生活において、どのように専門知識を学んでいけばいいかといった「大学内での学習」と、ボランティアやインターンシップなど実際の経験を積み重ねる「大学外での学習」を総合的に組み立てることができるようになります。

授業では一方的に話を聴くのではなく、自分の言葉で語る機会を大切にしています。授業で学んだ知識をグループワークなどで表現し、先生や仲間、大学外からのゲストスピーカーから意見をもらうことで、自分の考えを客観的に見つめ、少しずつキャリアに関する視点を身につけていくことができます。さらに、授業で取り扱ったことについて発展的に学習できるよう、キャリアデザインセンターでは各種講座を授業の進捗に合わせて展開しています。これに加え、授業期間中にキャリアアカウンセリングを受けると、よりいっそう自分に適したキャリアを見つけられるでしょう。

このように**キャリア入門**を受講すると、キャリアに関わる意識や能力がどの程度身についたか認識できるようになり、大学内外での学びを意識しながら、キャリアに対する知識を獲得し、職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。あるべき自分を早い段階で意識し、己の進むべき道を主体的に選択できるよう、キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお、**キャリア入門**は、1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

転換・導入科目
キャリア基礎科目

教養科目・融合領域科目・キャリア科目



キャリア科目1
(キャリア開発)

●業種や職種を理解し、自らのキャリアを具体的に展望する「キャリア開発」

キャリア科目2
(キャリア研究)

●企業が抱える課題の解決策を考えると、主体的にキャリアデザインできる能力を修得するための「キャリア研究」

(4) 情報リテラシー科目

大学での学修は、単に知識を覚えるのではなく、なぜそうなるのかを自分で考えることが必要です。そのためには、自分でデータを分析し、表現することが必要になります。そのため情報リテラシー科目では、PC等の情報技術を使って科学的・論理的な思考をするのに必要な基礎的な事項を学修します。

「情報リテラシー科目」として設置される**情報入門1**、**情報入門2**では、専修大学から利用できるさまざまな知的資源の検索・収集方法を学修し、表計算ソフトウェア等を使って情報を加工・分析します。また、統計データを実際にPCを使って分析します。分析結果などをプレゼンテーショ

ンやWebを通して表現する能力を身につけます。さらに、コンピュータ処理の特徴を理解し、どのようにコンピュータに指示を与えるのかを学修します。詳しくは、[専修大学 情報入門](#)で検索してください。テキストなどを参照できます。

なお、**情報入門1**、**情報入門2**は1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

情報入門1の学修内容	情報入門2の学修内容
<ul style="list-style-type: none"> ● 専修大学の情報システムの利用法 ● 情報倫理についての理解 ● 検索サイトや CiNii などのデータベースを使ったデータ検索 ● 文書作成 ● 表計算 <ul style="list-style-type: none"> ➢ データ分析 ➢ 計算式によるデータ分析 ➢ グラフによる可視化 ➢ 絶対参照・相対参照の概念 ➢ 統計資料を使った分析 	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンテーションソフトウェアによるスライド作成・表現法の学修 ● 表計算ソフトウェアを使った高度な処理 ● HTML 文を記述することによるWeb（ホームページ）の作成 ● アンケート集計（クロス集計など） ● プログラミング（どのようにコンピュータへ処理方法の指示を与えるか） ● シミュレーション

(5) 基礎自然科学

専修大学における自然科学系の講義は、みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むことができるようになること』を目的としています。なぜ文科系の学部を専攻するみなさんが、自然科学系科目を受講する必要があるのでしょうか。

現在、私たちは、地球温暖化、エネルギー問題、安全性や倫理性に関する問題（遺伝子操作、放射能など）に直面しています。みなさんが、将来どのような職業に就いたとしても、自然科学的な考え方や知識、結論の根拠を自分で判断する力や科学的に論述する力は必要になるでしょう。

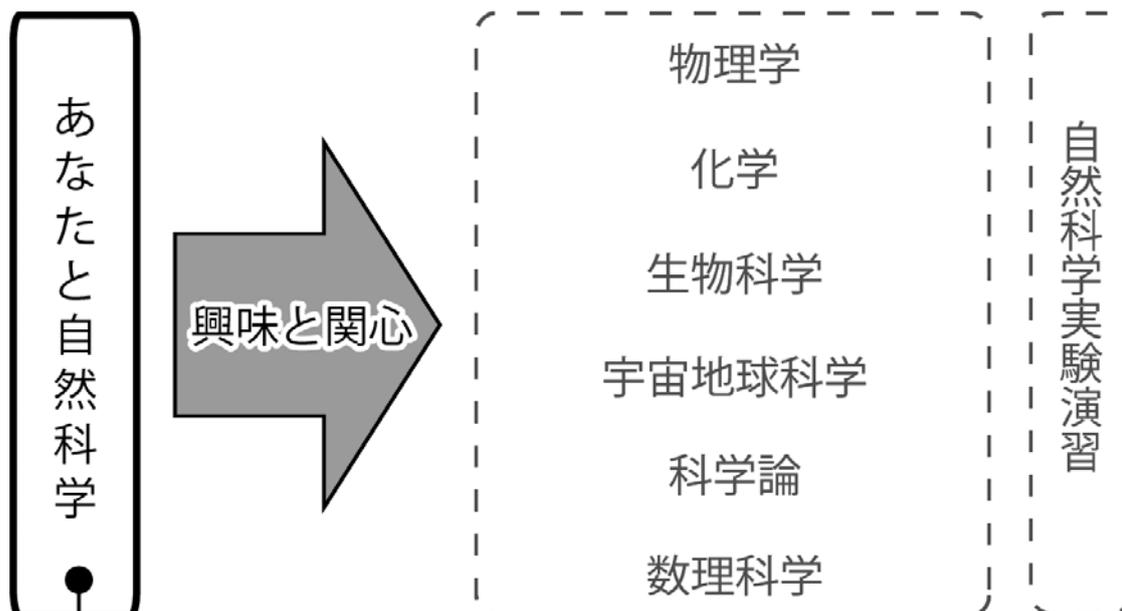
「基礎自然科学」に設置された科目である**あなたと自然科学**は、みなさんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め、みなさんと自然科学の関係を知るための導入として設置されます。ここで学んだことは、卒業までに学んでいく教養科目の自然科学系科目につながっていきます。この科目で興味・関心を深め、教養科目で学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

なお、社会学科では**あなたと自然科学**は、単位の修得は義務づけられていませんが、1年次に必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

心理学科では1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

転換・導入科目
基礎自然科学

教養科目
自然科学系科目



「あなた」と自然科学はどのような関係にあるのだろうか？
自然科学はどうやってモノゴトを解決しているの？
『科学的』に考えて、明らかにする」ってどんなこと？

(6) 保健体育基礎科目

スポーツリテラシーを学ぶ

スポーツリテラシーとは、「スポーツ実践を通じて、その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し、スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。「保健体育基礎科目」のスポーツリテラシーでは、スポーツが有するさまざまな可能性に触れて身体知を養い、スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

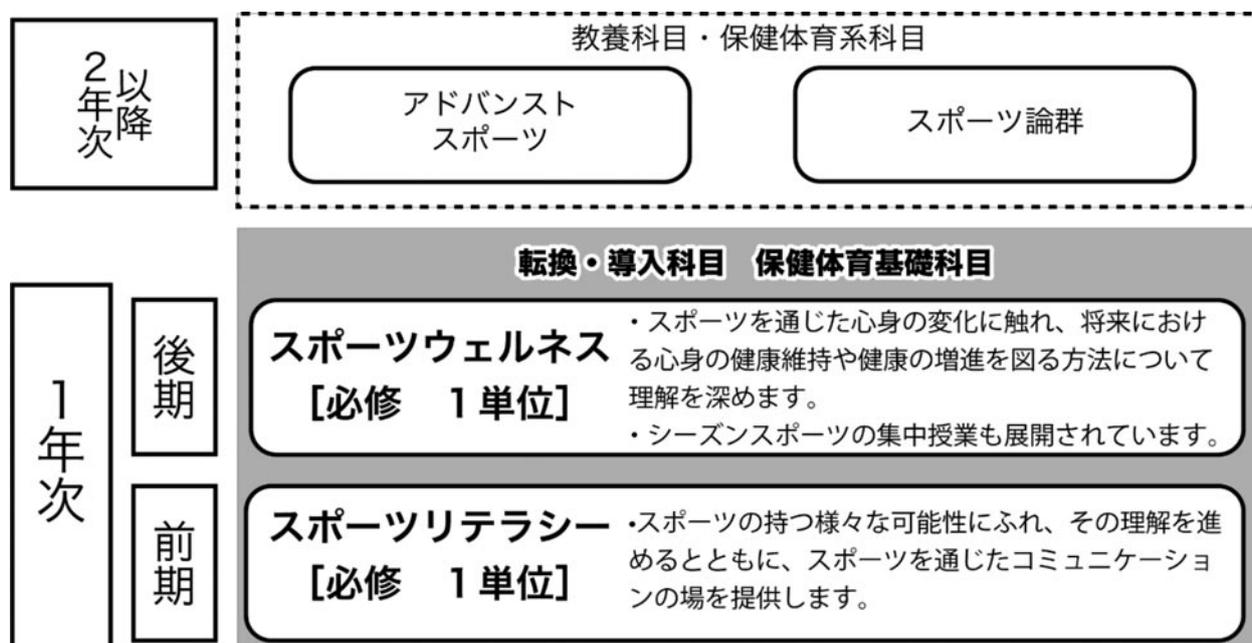
スポーツリテラシーでの取り組みは、同じ保健体育基礎科目のスポーツウェルネスや教養科目・保健体育系科目のアドバンススポーツでの実践的な身体活動やスポーツ論で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

スポーツウェルネスを学ぶ

スポーツウェルネスとは、「スポーツ実践を通じて、積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。「保健体育基礎科目」のスポーツウェルネスでは、スポー

ツを通じた身体活動が、健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

転換・導入科目の保健体育基礎科目スポーツリテラシー（1単位）とスポーツウェルネス（1単位）の計2単位の修得が卒業要件となっています。



注意事項

- ◎スポーツリテラシーとスポーツウェルネスを履修する際は、事前に健康診断を受ける必要があります。2年次以降に再履修する場合も同様です。
- ◎同一年度にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの同一種目を履修することはできません。ただし、スポーツリテラシー（ゴルフ）とスポーツウェルネス（集中授業ゴルフ）の履修は可能です。
- ◎疾病、身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課教養・体育窓口もしくは第1回目の授業時に申し出てください。
- ◎個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。
- ◎転換・導入科目の必修科目として開講されていますので、1年次に単位を修得できなかった場合、2年次以降に再履修しなければなりません。
- ◎2年次以降から、教養科目・保健体育系科目のアドバンススポーツとスポーツ論が履修できます。
- ◎2年次以降のアドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得した場合に履修できます。
- ◎再履修として履修する場合は、同一期間（前期または後期）の同じ曜日にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの2科目を履修することはできません。

Ⅱ 教養科目

教養科目の位置づけと目的

教養科目は専門科目と併せて、転換・導入科目で身につけた基本的な力を用いて、さらに知識を広げ、それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また、専門科目で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。教養科目は専門科目とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ、ストレスも多くなっています。このような時代には、バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会、身体や自然への知識と理解、またそこから得られる国際的な広い視点は、複雑な社会で生きるための基礎となります。

教養科目の学び方

教養科目のうち、「人文科学基礎科目」と「社会科学基礎科目」は、1・2年次で履修します。科目ナンバリング、講義要項（シラバス）を参考にしながら、自分の学部・学科の専門性を考慮して、履修することが望まれます。「自然科学系科目」と「保健体育系科目」は、講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。「融合領域科目」は、2・3・4年次で履修します。

自然科学系科目と保健体育系科目については、転換・導入科目で展開されている科目において、入門的な内容や科目の大きな目標・目的を学んでいます。それらを基礎とし、さらなる学修によって、これらの分野をより深く理解することができます。

(1) 人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように、大きい枠組みでは、文学・歴史学・哲学・芸術学・文化人類学・ジャーナリズム学・心理学に分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので、みなさんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では、これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられているのでしょうか。それは、これらの学問がいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。人文科学は、具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする、そのような領域です。そして、人間の営みはさまざまですから、それに応じて多種多様な学問が生まれるのです。

人文科学の領域からは複数の科目を履修していただくことを推奨します。そうすることによって、さ

まざまな人間観や世界観，歴史，多文化，異文化についての関心を広げること，そして，多面的なもの見方に立ち，日常生活での人間性に関わる諸問題の解決に取り組むことができるようになります。ここに人文科学領域の，単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり，これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学基礎科目の学び方

- ・人文科学基礎科目は，1・2年次に履修します。
- ・科目名が同じでも，担当する教員が異なる場合，扱う内容が異なることもあります。しかし，その場合でもその科目の目標は同じです。
- ・個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方，人間の営みのさまざまな側面を知り，自分とは違った観点をもつことができるようになるためには，一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは，学びを深める上での基本です。したがって，どの学科に所属していても，複数の学問領域から履修することが望まれます。

人文科学の学問領域と人文科学基礎科目の設置科目

人文科学の学問領域	人文科学基礎科目の設置科目
文 学	日本の文化 日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待
歴 史 学	歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化
哲 学	哲学 倫理学 論理学入門 ことばと論理
芸 術 学	芸術学入門
文 化 人 類 学	異文化理解の人類学
ジャーナリズム学	ジャーナリズムと現代
心 理 学	基礎心理学入門（心理学科を除く） 応用心理学入門（心理学科を除く）

(2) 社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業、国家、家族、地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気がきます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与えあっているのかを理解することで知識を深めることができます。

自分が生きている社会ですから、理解できていると思いついてしまったり、先入観にとらわれて誤認したりすることもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、そして、多面的なものの見方に立って、一市民として、社会生活上の諸課題の解決に取り組むことができるよう、表にあるような科目を設置しています。

社会科学基礎科目の学び方

- ・社会科学基礎科目は、1・2年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、講義要項（シラバス）で確認してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で、そのためには、一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の学問領域から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎科目の設置科目

社会科学の学問領域	社会科学基礎科目の設置科目
社会科学全般	社会科学論 社会思想
経済学	経済と社会 現代の経済
法学	日本国憲法 法と社会
政治学	政治学入門 政治の世界
経営学	はじめての経営
商学	マーケティングベーシックス 企業と会計
教育学	教育学入門 子どもと社会の教育学
地理学	地理学への招待
社会学	社会学入門（社会学科を除く） 現代の社会学（社会学科を除く）
情報学	情報社会

(3) 自然科学系科目

自然科学系科目を学ぶ意義と目的

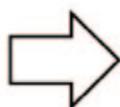
「自然科学系科目」として、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論、数理科学および自然科学実験演習が設置されています。転換・導入科目「基礎自然科学」のあなたと自然科学でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

そのために次のような目的で科目を設置しています。

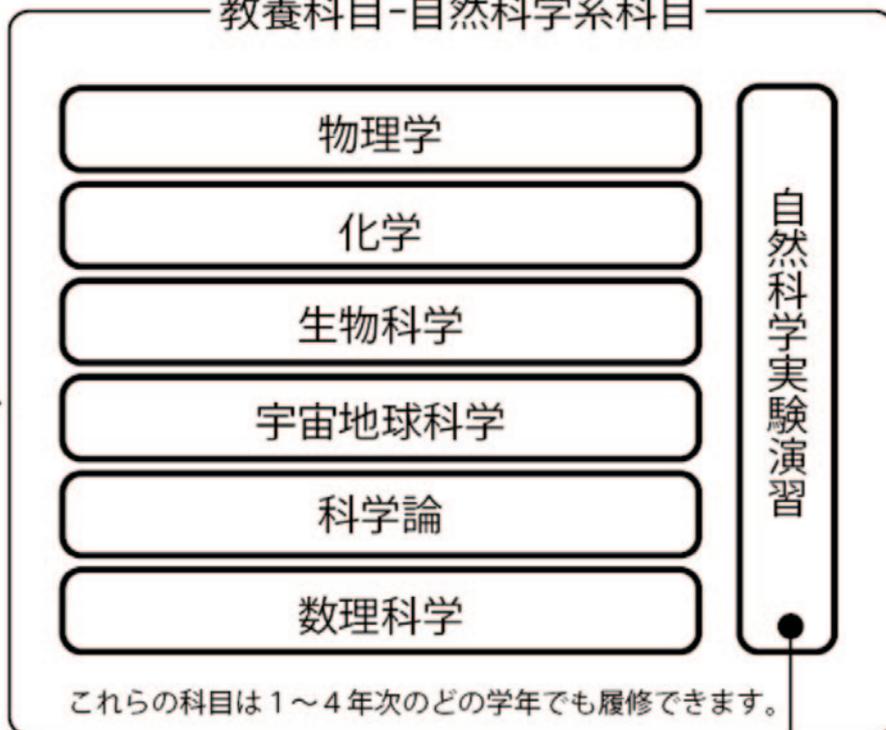
- ①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。
- ②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。
- ③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。

転換・導入科目
基礎自然科学

あなたと自然科学



教養科目-自然科学系科目



講義で学んだ内容を実際の実験や観察によって経験することで、自然科学をより身近に感じましょう。1~4年次のどの学年でも履修できますが、実験も行う科目のため、履修人数に制限のある場合があります。

自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは、次の表のとおりです。「物質」や「環境」、「宇宙」といった広いテーマに関連するキーワードは、複数の科目に含まれていることがわかります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。

科目名	それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード
生物科学 1 a・1 b	細胞、遺伝子、DNA
生物科学 2 a・2 b	生物と環境の科学、生態学、進化学
生物科学 3 a・3 b	ホメオスタシス、脳・神経、内分泌、感覚、細胞
宇宙地球科学 1 a・1 b	恒星、銀河、太陽系、天体の運動、天体の観測
宇宙地球科学 2 a・2 b	プレートテクトニクス、地震、火山、地球史、環境変動
化学 1 a・1 b	物質の理解、ものつくりの基本、元素と周期表、物質の多様性、生体関連物質
化学 2 a・2 b	エネルギー資源、自然環境、リサイクル、有機化合物、生体分子
物理学 1 a・1 b	力学、波動、量子論、電磁気学
物理学 2 a・2 b	現代物理、宇宙論、相対論、素粒子論、統計熱力学
数理科学 1 a・1 b	代数
数理科学 2 a・2 b	解析・幾何
数理科学 3 a・3 b	統計
科学論 1 a・1 b	進化論、大きすぎて見えないもの、小さすぎて見えないもの
科学論 2 a・2 b	科学と技術、科学史、人間と科学

- ・興味のあるキーワードを中心に関連する科目を履修するのも一つの方法です。
 - ① 「環境」に興味がある→宇宙地球科学2 a・2 bと生物科学2 a・2 b, および化学2 a・2 bを履修する。
 - ② 「宇宙」に興味がある→宇宙地球科学1 a・1 bと物理学2 a・2 bを履修する。
 - ③ 分野を超えて幅広く, そして深く履修する。→数理学で「数学」を学び, この知識を生物科学2 a・2 bの「生態学」の学修に活かす。
- ・「〇〇1 a」など番号+アルファベットまでが科目名です。「〇〇1 a」と「〇〇1 b」は別科目です。
- ・「〇〇1 a」, 「〇〇2 a」, 「〇〇3 a」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり, 難易度を意味するものではありません。「〇〇3 a」から履修しても構いません。
- ・いずれの科目も, 年次に関わらず自由に履修することができます。ただし, 教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については, 講義要項(シラバス)で確認してください。
- ・科目名が同じでも, 担当する教員が異なる場合, 扱う内容が異なることもあります。

(4) 融合領域科目

融合領域科目を学ぶ意義と目的

「融合領域科目」は, 各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することをみなさんに示しながら, どんな社会現象や自然現象にも複数の側面(多面性)があり, それらの間に複雑な関係性があることを理解させ, みなさんの思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な目的としています。

融合領域科目に設置される科目	科目の目的や内容
学際科目	学際的なテーマを扱い, 原則として複数の教員やゲストスピーカーが共同で講義を行います。広い視野からの多面的・学際的な検討により, 総合的な判断力を育成します。
テーマ科目	新しく注目を集めている学問領域やテーマについて深く掘り下げて講義します。
新領域科目	学際科目やテーマ科目が扱うような特定の学問領域に属さない特殊領域の科目に対応し, 講義します。
キャリア科目	業種や職種を理解し, 自らのキャリアを具体的に展望することを目的としたキャリア科目1(キャリア開発)と, 企業が抱える課題の解決策を考えることで, 主体的にキャリアデザインできる能力を修得するキャリア科目2(キャリア研究)により構成されています。転換・導入科目のキャリア入門を基礎として, より進んだキャリア形成を目指します。
教養テーマゼミナール	少人数の相互コミュニケーションによるゼミナール形式の科目です。担当教員の専門分野に関連したテーマを設定し, 発表・討論を中心に進め, 深く研究を行います。
教養テーマゼミナール論文	同じ担当教員の教養テーマゼミナールを2年間以上履修する場合に履修することができます。設定したテーマについて深く研究し, 論文を作成します。

融合領域科目の学び方

- ・融合領域科目は、2・3・4年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、講義要項（シラバス）で確認してください。

注意事項

- ◎**教養テーマゼミナール**は1・2・3に区分され、1は2年次、2は3年次、3は4年次配当の科目です。連続して同じ教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできますし、年度毎に別の教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできます。
- ◎同一年度に**教養テーマゼミナール**と専門科目のゼミナールを履修できます。
- ◎同一教員の**教養テーマゼミナール**を2年間以上履修する場合、**教養テーマゼミナール論文**を履修することが可能です。
- ◎**教養テーマゼミナール**は、毎年11月頃、次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配付します。

(5) 保健体育系科目

2年次以降、教養科目「保健体育系科目」のアドバンススポーツとスポーツ論が履修できます。

アドバンススポーツを学ぶ

アドバンススポーツでは、スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに、トップアスリートとの交流、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的としています。

スポーツ論を学ぶ

スポーツ論は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について、社会科学、自然科学、人文科学などの視点から学び、世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

2
年
次
以
降

教養科目 保健体育系科目

アドバンスト
スポーツ

半期2単位

- ・「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」の2科目2単位を修得した場合に履修できる科目です。
- ・「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。
- ・シーズンスポーツの集中授業も展開されています。

スポーツ論

半期2単位

- ・スポーツ論は理論科目です。
- ・スポーツを様々な視点から捉えた6つの科目、
スポーツ論（健康と生涯スポーツ）
スポーツ論（オリンピックとスポーツ）
スポーツ論（スポーツコーチング）
スポーツ論（スポーツライフデザイン論）
スポーツ論（人類とスポーツ）
スポーツ論（トレーニング科学）
が展開されています。
- ・同一科目を重複して履修することはできません。

1
年
次

転換・導入科目 保健体育基礎科目

スポーツリテラシー

スポーツウェルネス

注意事項

- ◎アドバンストスポーツは、転換・導入科目の「保健体育基礎科目」スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両方の単位を修得した場合に履修できます。
- ◎アドバンストスポーツを履修する際は、事前に健康診断を受ける必要があります。
- ◎アドバンストスポーツは同一種目を重複履修、また複数種目を履修する事ができます。
- ◎スポーツ論は、「スポーツ論（健康と生涯スポーツ）」のように（ ）までが科目名です。
- ◎個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。

Ⅲ 外国語科目

外国語科目

外国語科目には、「英語」と「英語以外の外国語」、「海外語学研修」があります。

外国語科目「英語」では、高校時代までで学んできた英語を土台としつつ、日本を含めた世界を意識した英語の学習に取り組みます。急速なグローバル化の時代、みなさんが将来どの分野に進もうとも、英語は不可欠です。ぜひ目的意識をもって英語の学修を続けていきましょう。

外国語科目「英語以外の外国語」では、ことばそのものを修得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化（Cultures）に触れます。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション（Communication）が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる（Connections）、異文化への新鮮な窓口です。

外国語科目「海外語学研修」は、実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。

◎「CALL 自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス 1 号館地下には CALL 自習室と CALL ライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材をはじめ、検定試験対策教材や雑誌等が視聴、閲覧できます。また、生田 10 号館 1 階情報コアゾーンにも CALL 自習スペースは設けられていて、こちらでは DVD を中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

なお、インターネットブラウザ上で学習を行える e-learning 教材（ALC NetAcademy NEXT）もあります。専修大学の学生なら、手続きなしで活用することができ、英語資格試験対策などの学習を学内のみならず学外でも行うことができます。

（1）英語

英語を学ぶ意義

外国語科目の「英語」では、高等学校までで学んできた英語を土台としつつ、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また、実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも大変重要です。

必修の英語科目に加え、英語の 4 技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）をさらに高め、グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すとともに

に、異文化への理解を深めましょう。

①英語の履修方法

人間科学部では、1年次で、外国語科目の英語4科目（4単位）を履修することとなっています。

（A群）Basics of English（RL）1a, 1b または Intermediate English（RL）1a, 1b の2科目と、（B群）Basics of English（SW）1a, 1b または Intermediate English（SW）1a, 1b の2科目を履修します。

RLはリーディングとリスニングが中心、SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。Basics と Intermediate の違いについては、次の②をご覧ください。

科目名に a がつく科目は前期、b がつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

これらの科目の単位を修得できなかった場合には、General English を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English は半期科目として実施されます。

②英語の特徴

習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト」によって、Basics of English と Intermediate English のどちらを履修するかが決定します。

基礎的な学修が必要な場合は Basics of English、基礎が修得されている場合は Intermediate English を履修します。

Intermediate English はさらに Mid と High にわかれています。特に希望すれば、英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより、1レベル上（Basics of English→Intermediate English（Mid）、Intermediate English（Mid）→Intermediate English（High））のクラスの履修を許可されることもあります。

③選択科目について

外国語科目の英語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎1年次から履修できる選択科目

1年次から選択できる英語の選択科目は次の3種類です。これらは2～4年次でも履修できます。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a, English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a, Computer Aided Instruction b

e-learning教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a, Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning教材を使用し、TOEIC®で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期1単位です。

◎2年次から履修できる選択科目

2～4年次は、1年次から選択できる上記の3種類の科目に加えて、さらに5種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a, Advanced English b

発展的な内容を学修し、英検、TOEFL®, TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a, English Language and Cultures b

英語圏の文化、言語、コミュニケーションのあり方を、様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Presentation a, English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ、聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

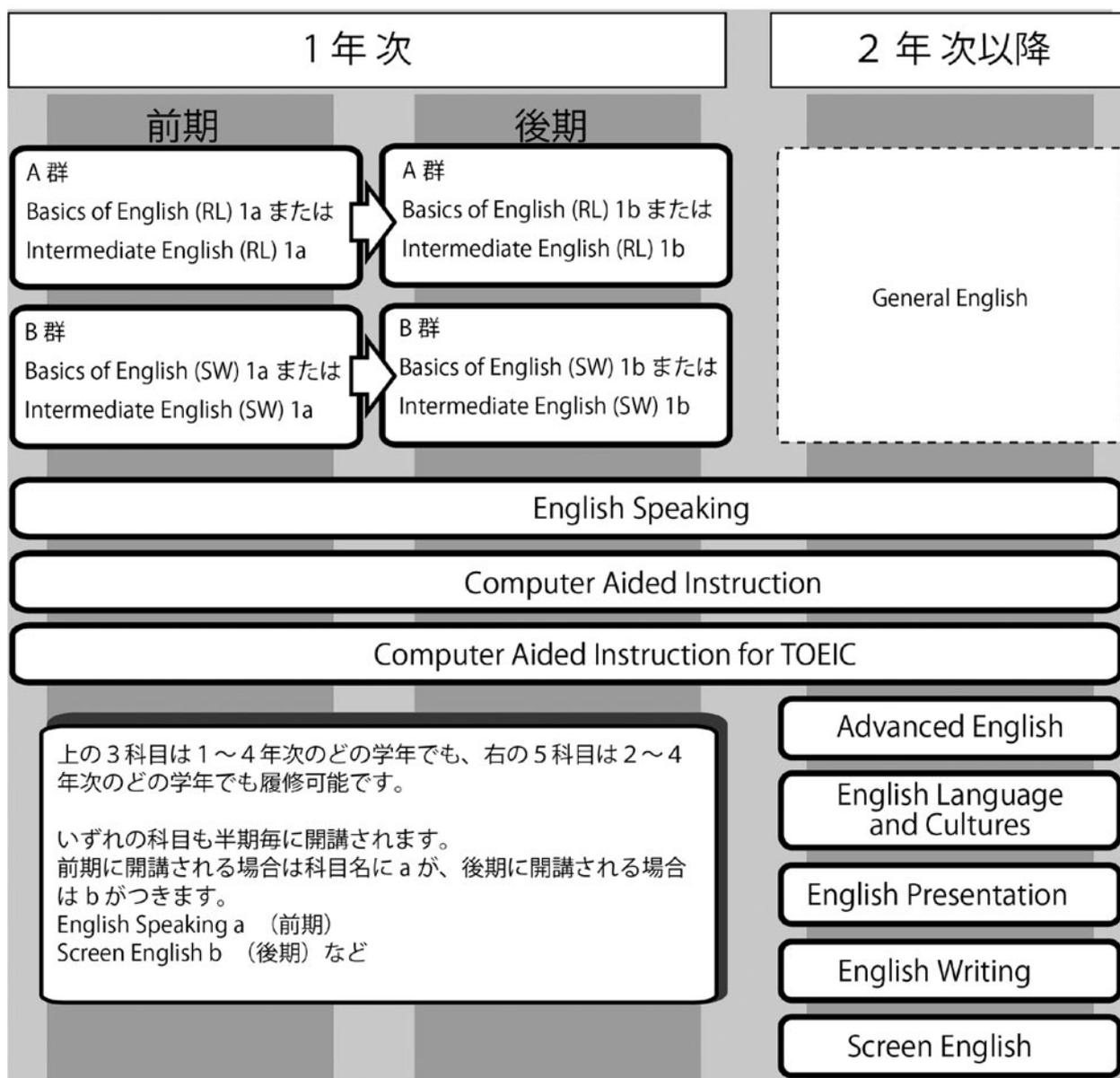
English Writing a, English Writing b

正しい文章を書き、正確に情報を伝達する能力を養います。

Screen English a, Screen English b

映画で使用される口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を学びます。

これらの科目は半期2単位です。



⑤資格試験による単位認定（英語）

英検，TOEFL®，TOEIC®において、一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし、下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	基準認定	認定 単位数	認定科目群		認定科目名 (単位数)
上位 基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	準1級 83点以上 730点以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

	検定試験の種類	基準認定	認定 単位数	認定科目群		認定科目名 (単位数)
下位 基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	— 61点以上 600点以上	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎認定単位数の上限は4単位です。下位基準による2単位の認定を受けたものが、その後に上位基準を満たした場合、翌年度以降に追加認定を申請できますが、その際の認定単位数は、上限単位数から既認定単位数を差し引いた2単位となります。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎TOEFL ITP®, TOEIC®-IP は認定対象には含まれません。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定科目（群）は原則として、未修得科目のうち必修科目とし、すべての必修科目を修得している場合には、Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、当該年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験出願時に原本を提出した場合は、窓口で申し出てください。
- 4) 合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり、2年以内とします。

(2) 英語以外の外国語

英語以外の外国語を学ぶ意義

Communication + Cultures + Connection : 3つのCをさらに充実させよう

Communication : 未知の人たちとコミュニケーションしよう！

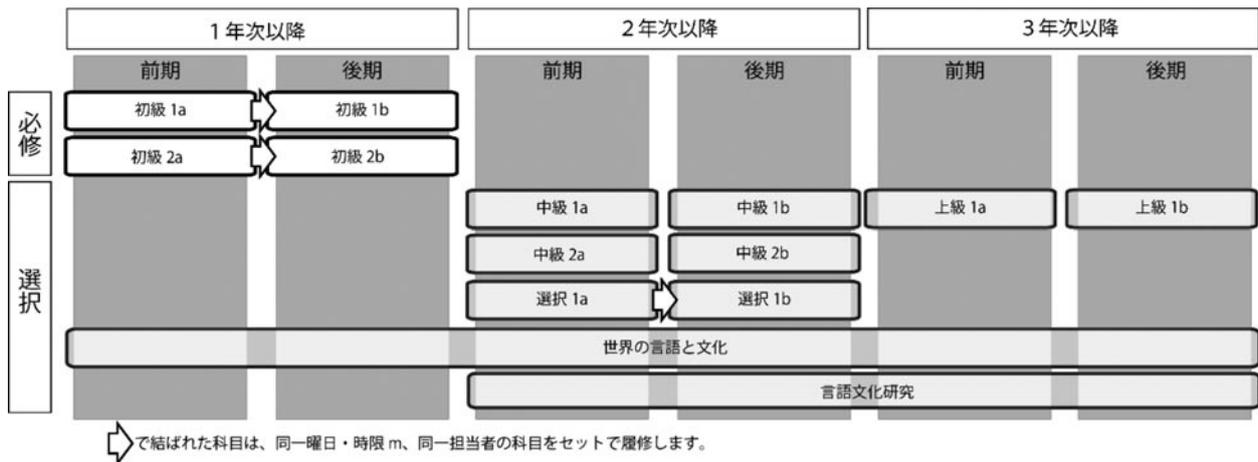
Cultures : さまざまな国、地域の社会と文化を理解しよう！

Connections : 国を越えて、分野を越えて、人と、社会とつながろう！

英語以外の外国語には、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、韓国語が設置されており、第三の外国語としてアラビア語、イタリア語も勉強することができます。また、あわせて日本語による講義科目である世界の言語と文化と言語文化研究を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

①英語以外の外国語の履修方法

人間科学部では、1年次において、外国語科目・英語以外の外国語の「導入」の科目（初級1 a, 1 b, 2 a, 2 b）の4科目（4単位）を必修として履修することとなっています。科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で、半期ごとにそれぞれ成績がつきます。



② 選択科目について

英語以外の外国語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎ 1年次から履修できる選択科目

1年次から選択できる科目は**世界の言語と文化**です。各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

◎ 2年次以降に履修できる選択科目

中級 1 a, 1 b：初級で学んだことの復習＋さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

中級 2 a, 2 b：初級で学んだことの復習＋さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

上級 1 a, 1 b：個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目まで、年度を越えてさらに2科目、合計で4回履修することができます。

選択 1 a, 1 b：第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

言語文化研究：世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

- ◎英語以外の外国語の「導入」科目（初級1 a, 1 b, 2 a, 2 b）の4科目（4単位）を修得した場合は、同じ言語の選択1 a・1 bを履修することはできません。同様に、同じ言語の初級4科目（4単位）と選択1 a・1 bを同時に履修することはできません。
- ◎選択1 a・1 bは外国語科目の英語以外の外国語の「導入」の科目（初級1 a, 1 b, 2 a, 2 b）の4科目（4単位）の単位を修得した後に履修できます。
- ◎必修の外国語として履修した科目の単位が未修得の場合は、再履修しなければなりません。
- ◎中級以上の科目については、開講されない外国語もあります。
- ◎英語以外の外国語に設定された卒業要件単位を超過して修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。

③資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

高校までに、すでに英語以外の外国語を学修し、指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合、入学年度当初に英語以外の外国語の初級1 a・1 b および初級2 a・2 b（4科目4単位）の認定を行い、中級の科目に進むことができます。

下表の資格試験の基準を満たしている学生は、初級1 a・1 b および初級2 a・2 bの単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目（単位数）
ドイツ語技能検定試験	4級	4	ドイツ語初級1 a (1)
Goethe-Institut ドイツ語検定試験	A 2	4	ドイツ語初級1 b (1)
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A 2	4	ドイツ語初級2 a (1)
			ドイツ語初級2 b (1)
実用フランス語技能検定試験	4級	4	フランス語初級1 a (1)
			フランス語初級1 b (1)
DELF-DALF フランス語資格試験	A 2	4	フランス語初級2 a (1)
			フランス語初級2 b (1)
中国語検定試験	4級	4	中国語初級1 a (1)
			中国語初級1 b (1)
HSK 漢語水平考試	HSK 4級	4	中国語初級2 a (1)
			中国語初級2 b (1)
スペイン語技能検定	4級	4	スペイン語初級1 a (1)
			スペイン語初級1 b (1)
DELE スペイン語検定試験	A 2	4	スペイン語初級2 a (1)
			スペイン語初級2 b (1)
ロシア語能力検定試験	3級	4	ロシア語初級1 a (1)
			ロシア語初級1 b (1)
			ロシア語初級2 a (1)
			ロシア語初級2 b (1)

インドネシア語技能検定試験	D級	4	インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)
ハングル能力検定試験	5級	4	コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1)
韓国語能力試験	TOPIK I (1級)	4	コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1)
<p>注意事項</p> <p>単位認定の取り扱いについて</p> <p>◎同一言語の4科目4単位をセットで認定します。</p> <p>◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。</p> <p>◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。</p> <p>◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。</p> <p>◎認定された場合は、所定の手続きを経ることで、1年次に同一言語中級科目の履修が認められます。</p> <p>◎認定された場合は、初級1 a・1 bおよび初級2 a・2 bを履修することはできません。別の外国語を学修する場合、2年次以降に選択1 a・1 bを履修してください。</p> <p>申請手続き</p> <p>1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書類受領書」の交付を受けます。</p> <p>2) 申請期間は、入学年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。</p> <p>3) 提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。</p>			

(3) 海外語学研修

海外語学研修および交換留学

本学の国際交流センターでは、海外の大学等と協定を結び様々な留学プログラムを設け、留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。各プログラムの詳細については、国際交流事務課まで問い合わせてください。

留学プログラムを修了することによって単位認定される科目を次に紹介します。

①海外語学短期研修

海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修1に、春季留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修2に認定されます。

「夏期・春期留学プログラム」は、夏期・春期休暇を利用して海外の協定校等で約1ヶ月にわたって集中的な語学研修を行うものです。留学プログラム開設コース及び内容については平成30年11月現在のものです。

海外語学短期研修1 [2単位 (1～3年次担当)]

夏期留学プログラム開設コース：社会知性開発 (実用英語とイギリス文化)

研修期間は約3～4週間で、1日4～5時間程度の初級レベルの語学研修と課外活動を行います。実践的な会話を学修し、ホームステイやフィールドトリップなどをおして現地の文化・歴史・生活習慣を学べます。ウーロンゴン大学では語学研修終了後、シドニーにて2週間のインターンシップを体験します。

海外語学短期研修2 [2単位 (1～3年次担当)]

春期留学プログラム開設コース：

英 語 カルガリー大学 (カナダ), ワイカト大学 (ニュージーランド)

中 国 語 北京大学 (中国)

コ リ ア 語 延世大学 (韓国)

ド イ ツ 語 マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク (ドイツ)

フ ラ ンス 語 トゥーレーヌ語学センター (フランス)

ス ペ イ ン 語 バルセロナ大学 (スペイン), イベロアメリカーナ大学 (メキシコ)

研修期間は4～5週間で、1日4時間程度の語学研修と課外活動を行います。英語コースの応募にはTOEFL®スコアが必要です。また、コースによっては文化施設見学やフィールドトリップ等、様々なプログラムが展開されています。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパフレットをよく読むようにしてください。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は研修参加が決定した後で定められた期日までに科目履修登録を行ってください。
- ◎評価は各プログラムの習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎それぞれの言語ごとに各1回単位を自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び同一留学プログラム同一言語コース2度目の参加者については対象となりません。

②海外語学中期研修

海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

「中期留学プログラム」は、本学協定校あるいは研修校に前期または後期の4～5ヶ月間留学し、外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。留学プログラム開設コース及び内容については平成30年11月現在のものです。

海外語学中期研修1～8 [各2単位 (2～4年次配当)]

中期留学プログラム開設コース：

英 語 (前期)：カルガリー大学 (カナダ)，オレゴン大学 (アメリカ)，ウーロン
ゴン大学 (オーストラリア)，ワイカト大学 (ニュージーランド)

英 語 (後期)：ネブラスカ大学リンカーン校 (アメリカ)

社会知性開発 (後期)：ワイカト大学+インターンシップ (ニュージーランド)

ド イ ツ 語 (前期)：ライプツィヒ大学 (ドイツ)

フランス語 (後期)：リュミエール・リヨン第2大学 CIEF (フランス)

中 国 語 (後期)：上海大学 (中国)

スペイン語 (後期)：イベロアメリカーナ大学 (メキシコ)

コ リ ア 語 (後期)：檀国大学 (韓国)

実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、大学の正規授業を受けるために必要な
アカデミックスキル (プレゼンテーション，ノート・テイキング，リサーチ，論文の書き方
等) や，異文化について学ぶことができます。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパンフレットをよく読むようにしてく
ださい。
- ◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので，希望者は中期留学プログラムへの参加決定後，所定の
期間に教務課で面接の上，中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行っ
てください。
- ◎学修成果の評価は，当該科目担当教員が「事前授業」，「事後授業」，「留学先の成績表」等に基づ
いて行い，「認定」として単位を授与します。
- ◎単位は自由選択修得要件単位として，英語では**海外語学中期研修1～8 (英語)** (各2単位)，
ドイツ語では**海外語学中期研修1～8 (ドイツ語)** (各2単位)，フランス語では**海外語学中期
研修1～8 (フランス語)** (各2単位)，中国語では**海外語学中期研修1～8 (中国語)** (各2単
位)，スペイン語では**海外語学中期研修1～8 (スペイン語)** (各2単位)，韓国語では**海外語
学中期研修1～8 (韓国語)** (各2単位) で，それぞれ最高16単位まで認定されます。
- ◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考され
る川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

③交換留学

交換留学には，「長期交換留学プログラム」(8ヶ月～1年間)と「semester交換留学プログ
ラム」(4～5ヶ月)の2種類があります。どちらも本学協定校にて，正規授業科目を履修するプ

プログラムです。留学中に修得した単位は、審査のうえ 60 単位（日本語学科および日本文学文化学科は 30 単位）を上限に本学の単位に振り替えることができます。また、国際交流協定に基づいて留学先大学への学費の支払いが免除されます（集中語学研修授業料は除く）。

「長期交換留学プログラム」には、第 1 期と第 2 期があり、募集期間・出発期間が異なります（第 1 期 6 月下旬募集締切・翌年 1～2 月出発、第 2 期 1 1 月上旬募集締切・翌年 4～6 月出発）。

「 Semester 交換留学プログラム」の場合は、留学期間が 1 学期間（9 月～12 月）に限定されますが、こちらも留学先大学の学費が免除されるため、経済的負担を抑えることができます（集中語学研修はありません）。

長期交換留学プログラム第 1 期：

英 語：ウーロンゴン大学（オーストラリア）、ワイカト大学（ニュージーランド）

中 国 語：上海大学、西北大学（中国）、国立中山大学（台湾）

モンゴル語：モンゴル国立大学（モンゴル）

コ リ ア 語：檀国大学（韓国）

ド イ ツ 語：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）

フランス語：リヨン政治学院（フランス）

スペイン語：バルセロナ大学（スペイン）

長期交換留学プログラム第 2 期：

英 語：ネブラスカ大学リンカーン校、サスケハナ大学、オレゴン大学（アメリカ）、
カルガリー大学（カナダ）、ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）、
ブリストル大学（英国）

スペイン語：イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

Semester 交換留学プログラム：

英 語：ネブラスカ大学リンカーン校、サスケハナ大学、オレゴン大学（アメリカ）、
カルガリー大学（カナダ）、ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）

注意事項

- ◎プログラム及び内容については平成 30 年 11 月現在のものです。詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパンフレットをよく読むようにしてください。
- ◎交換留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎交換留学プログラムにおける単位認定は、所属学部によって規定が異なります。国際交流事務課及び所属学部の教務課にて確認してください。
- ◎認定された科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

IV 外国人留学生の特例履修科目

外国人留学生のみなさんの学修がスムーズに行えるよう、本学では留学生のための科目を次の通り設置しています。

(1) 教養科目・留学生専修科目

1年次（必修科目）

一般日本事情1 一般日本事情2 半期 2科目 4単位

(2) 外国語科目・日本語科目

1年次（必修科目）

日本語文章理解1→日本語文章理解2 半期 2科目 2単位

日本語音声理解1→日本語音声理解2 半期 2科目 2単位

日本語口頭表現1→日本語口頭表現2 半期 2科目 2単位

日本語文章表現1→日本語文章表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎矢印(→)で結ばれた科目(例えば、日本語文章理解1→日本語文章理解2)は、同一曜日・時限、同一担当者の科目をセットで履修します。ただし、前期に単位を修得できなかった場合は、後期の履修登録が削除されます。

2年次以上（選択科目）

応用日本語理解1 応用日本語理解2 半期 2科目 2単位

応用日本語表現1 応用日本語表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2を履修するためには、前年度までに日本語文章理解1, 日本語文章理解2, 日本語音声理解1, 日本語音声理解2, 日本語口頭表現1, 日本語口頭表現2, 日本語文章表現1, 日本語文章表現2の単位を全て修得していなければなりません。

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2は、同一年度に同じ科目を重複して履修することはできませんが、年度を変えれば、それぞれの1で3科目3単位, 2で3科目3単位まで履修することができます。

◎母語の科目を、外国語科目(世界の言語と文化, 言語文化研究を除く)として履修することはできません。

第3章

専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか

心 理 学 科

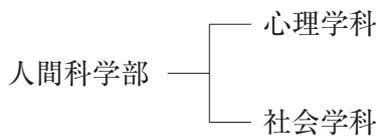
社 会 学 科

専門科目では何を学ぶか

第1章で記したように、本学における教育は、「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」および「専門科目」に分かれている。「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」は全学の学生を念頭に入れて、みなさんが豊かな教養をもった社会人として社会に巣立っていく基礎を築くために設けられている。

これに対し、「専門科目」は、みなさんが所属する学部の特徴を最もよく示すものである。

人間科学部は、2010年4月から心理学科、社会学科の2学科で構成される学部として発足した。



人間科学部の各学科が設けている「専門科目」の学び方は、以下の各学科のガイドブックをみてもらうことにして、ここでは専門科目の学び方にかかわる一般的な点について述べておく。

人間科学部の各学科の設けている多様な「専門科目」の多くは、「講義」・「実習・実験」・「ゼミナール」の授業形式を採っている。そして、各学科の科目設置の主旨にもとづき各学年に配当されているものであるから、その主旨を理解した上で履修してもらいたい。

「講義」・「実習・実験」・「ゼミナール」は、それぞれが独立した授業の「ねらい」を持っているが、他の授業と深い連関を持つ場合が少なくない。この連関を考えない履修は、せっかくの専門科目の履修の効果を削ぐことがある。

とりわけ、各学科が配慮して学年配当し、「積み上げによる学修」効果を期待した科目の履修にあたっては、連関を意識して受講する格段の熱心さが求められている。

また、人間科学部は、「教師・学生の顔の見える少人数教育」を重視している。

ゼミナールは、学生が「調べる」—「報告する」—「討議する」ことを通じてより深い理解に到達する授業形式で、最も大学の授業らしい授業である。

こうした点に留意して、大学で主体的に学んでいって欲しいと思う。大学で主体的に学ぶとは、自らの知的要求や将来の目的を基礎において、ひとつに授業科目間の「連関」を探し出し、「私なりの時間割」を作り出すことにあるのである。

心理学科

I 心理学科の学生のために

1. 心理学科の特色

心理学は人間性の理解をめざす学問分野の1つであり、人間の意識や行動、そしてそれをもたらす精神活動や心理的機能について、実証的・科学的に解明していくことをめざしている。わたしたちの意識や行動は、物的・対人的・社会的・文化的な環境とのかかわりで生じるが、一方、精神活動や心理的機能は、わたしたちの身体、特に脳・神経系を基盤にして営まれていると考えられる。その意味で、心理学は人文科学・自然科学・社会科学の接点に位置しており、方法や技法の点でも、心理学独自のものに加えて、諸科学のものを取り入れながら、学際的に研究が進められている。

以上の枠組みにしたがって、次のような教育が提供されることになる。心理学のさまざまな領域でこれまでに蓄積されてきた研究成果や、展開されてきた理論を習得するとともに、実証科学としての心理学の研究方法を実習を通して体得し、現代の心理学の諸問題について、みずからが主体的に思考し、みずから立案した実証的な研究を通してその思考を妥当化する試みを体験することができる教育。

この教育が目標とするところは、次のような人材の育成にある。

- ① 大学院へ進学し、将来研究者として心理諸科学の進歩に寄与しうる人材
- ② 学部卒業後もしくは大学院へ進学した後に「公認心理師」をはじめとする心理系の資格を取得し、広くひとのこころの健康のために貢献しうる人材
- ③ 国家・地方公務員として、あるいは民間企業の中で、心理学の知識を活かしながら、各部門で責任ある指導的役割を果たしうる人材
- ④ 心理学とは直接には関連しない職責にあっても、心理学教育を受けたことで獲得した人間と科学に対する深い理解をもつ常識ある人材

2. 1年次でどう学ぶか

大学における学修は、高校時代までのようにあらかじめ設定された時間割にしたがって教員から一方的に与えられるものを受動的に受け入れるというかたちをとるのではなく、みずからの志向に合わせて主体的に科目の選択を行い、学修対象に積極的にはたらきかけながら学び取るという姿勢でなされてはじめて実を結ぶことになる。これは、「転換・導入科目」「教養科目」「専門科目」のいずれについても異なるところはない。これまでの受け身の学修法を払拭して、知識を学問として、すなわち体系的・理論的・体験的に学び、主体的能動的に考えぬくという学修態度をぜひ体得してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが、1年次には修得単位の目安を38単位とし、これを充たすように履修計画を立ててほしい。

「専門科目」は、1年次には「心理学概論・臨床心理学概論」「心理学データ解析基礎1（心理学統計法）・心理学データ解析基礎2」「心理学基礎実験1（心理学実験）」の5科目が必修である。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な要件と、科目の具体的な履修方法について概説する。よく読んで、これに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については、p. 23「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、心理学科生は以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上で、あらためてこの表を見直し、要求されているものが何であるかを確認してほしい。

人間科学部心理学科

区 分		卒業要件単位		備 考
転換・導入科目	専修大学入門科目【必修】		2	自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専 門 科 目	必 修 科 目	32	84	
	選 択 必 修 科 目	32		
	選 択 科 目	20		
自由選択修得要件単位		22		
卒 業 要 件 単 位		124		

[心理学科]

区 分		卒業要件単位		備 考
転換・導入科目	専修大学入門科目【必修】		2	自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されません。
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教 養 科 目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専 門 科 目	必 修 科 目	32	84	
	選 択 必 修 科 目	32		
	選 択 科 目	20		
自由選択修得要件単位		22		
卒 業 要 件 単 位		124		

[心理学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってほしい。

- ① 「転換・導入科目」2単位、「教養科目」8単位以上、「外国語科目」8単位以上、「専門科目」84単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」22単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この指針にもかなうように毎年の履修計画を立ててほしい。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。一度に同一名称の科目を2つ以上履修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

以上の点を考慮し、自分の興味と関心にしがたって自由に意欲的な時間割を組んでほしい。さら

に具体的な履修方法については以下に詳説するが、まず、pp.77～82の「心理学科専門科目一覧」を概観して、カリキュラムの大筋を頭に入れてほしい。

(1) 転換・導入科目、教養科目、外国語科目の履修方法

転換・導入科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。それぞれの課程については、転換・導入科目はp. 35に、教養科目についてはpp.41～48に、外国語科目についてはpp.49～60に、それぞれ詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換・導入科目

① 専修大学入門科目、保健体育基礎科目

専修大学入門科目は、1年次前期に展開されている科目を必ず履修しなければならない。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできない。保健体育基礎科目は、それぞれ半期1単位、合計2単位を必ず修得しなければならない。

② 上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので、履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で再履修することはできない。また、融合領域科目は2年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。

② 8単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a (前期)，1b (後期) またはIntermediate English (RL) 1a (前期)，1b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a (前期)，1b (後期) またはIntermediate English (SW) 1a (前期)，1b (後期) の2科目を履

修する。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級1a(前期)、初級1b(後期)の2科目と、初級2a(前期)、初級2b(後期)の2科目を履修する。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

開講される具体的な科目名称等については、pp. 107～108「人間科学部専門科目一覧」を見てほしい。

科目の中には、必ず単位を修得しなければならない「必修科目」(上記一覧で○印のついている科目)、開講された科目中から指定された科目数・単位数だけ必ず修得しなければならない「選択必修科目」(◎印のついている科目)、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる「選択科目」(△印のついている科目)、の3通りがある。

なお、科目の中には、年間を通して授業を行う「通年科目」と、半年で終了する「半期科目」とがある。また、毎年開講する科目の他に、隔年で開講される「隔年科目」が置かれる場合がある。履修計画を立てる上で注意してほしい。

① 必修科目

必修科目としては、「心理学基礎実験1(心理学実験)」(1年次・2単位)、「心理学概論・臨床心理学概論」(1年次・各2単位)、「心理学データ解析基礎1(心理学統計法)・心理学データ解析基礎2」(1年次・各1単位)、「心理学基礎実験2」(2年次・4単位)、「心理学実験演習1」(3年次・4単位)、「心理学購読1」(3年次・4単位)、「心理学実験演習2」(4年次・4単位)、「卒業論文」(8単位)がある。原則として、それぞれの配当年次に履修すること。

心理学基礎実験1(心理学実験) 標準化された心理学実験・心理テスト・社会心理調査を中心に、その実施方法、得られたデータの整理・処理法、さらに処理結果を評価し、レポートにまとめる手順についての実習を行う。

心理学概論・臨床心理学概論 広範な心理学の諸領域の研究を理解する上で必要な心理学の基礎的な概念が解説される。

心理学データ解析基礎1(心理学統計法)・心理学データ解析基礎2 科学としての心理学の出発点であるデータの測定法と分析法の基礎について学修する。1年次に単位を修得すること。

心理学基礎実験2 「心理学基礎実験1(心理学実験)」をさらに発展させた技法と概念を実習する。原則として、「心理学基礎実験1(心理学実験)」が履修済みであることが前提となる。

心理学実験演習 1 心理学のいくつかの研究領域について、その領域固有の問題を、その領域固有の方法で実習する。研究の立案からその実施・分析・報告まで、1年を通して指導する。これは卒業論文作成のための基礎となるものである。原則として、「心理学基礎実験 2」が履修済みであることが前提である。なお、同一年度に「心理学実験演習 1」を複数（並列で）履修することは出来ない。また、「心理学実験演習 1」の単位を修得しない限り、4年次配当の必修科目である「心理学実験演習 2」の履修はできない。そのため、3年次にこの単位を修得できなければ、4年次に「心理学実験演習 2」を履修できず、4年間で卒業することが不可能になる。

心理学講読 1 指導教員別に小グループで特定のテーマの下に、重要文献を講読したり文献研究をしたりする。

心理学実験演習 2 「心理学実験演習 1」をさらに発展させて研究を進めて論文にまとめる。「心理学実験演習 1」の単位を修得していることが必須となる。原則として、「卒業論文」の指導教員が担当する授業を履修する。また、研究テーマが大きく変更した場合を除き、自分自身が受講した「心理学実験演習 1」の担当教員が展開する「心理学研究法 2」を履修すること。加えて、「心理学実験演習 1」同様に、同一年度に「心理学実験演習 2」を複数（並列で）履修することは出来ない。

卒業論文 これまで学修してきたことを足場にして、各自のテーマについて自分なりの研究成果を、所定の様式にしたがって論文の形に仕上げる。

「卒業論文」は4年間の学修の総決算であり、学んできたことの最大の証となる。何かを学んだという実感が残る論文を書き上げるよう、取り組んでほしい。そのためには、学問のレベルを突破しようとする野心をもって臨まなければならない。

各人のテーマによって指導教員が決まるので、「心理学実験演習 1」の担当教員とよく相談しておくこと（4年次になると何かと対外的に忙しくなるので計画性をもってほしい）（「卒業論文」については、p.29参照）。なお、「心理学実験演習 2」の履修が出来ない学生には、「卒業論文」の提出は認めない。また、「卒業論文」の作成にあたり、その進捗状況を報告する中間発表を義務づける。

所定の単位を修得し、中間発表を行い「卒業論文」を提出し、その口述試験に合格して初めて学士（心理学）の学位が与えられることになる。

② 選択必修科目

1・2年次に配当されている「心理学コンピュータ実習 1・2」,「心理学研究法」2・3年次に配当されている「知覚心理学 1・2」「認知心理学 1（知覚・認知心理学）・2」「学習心理学 1（学習・言語心理学）・2」「生理心理学 1・2（神経・生理心理学）」「発達心理学 1（発達心理学）・2」「社会心理学 1・2（社会・集団・家族心理学）」「人格心理学 1（感情・人格心理学）・2」「臨床心理学 1（心理学的支援法）・2」「犯罪心理学 1（司法・犯罪心理学）・2」「心理学データ解析応用 1・2」の20科目、3・4年次に配当されている「心理学の思想と歴史 1・2」「情報処理心理学実習 1・2」,4年次に配当されている「心理学講読 2」,計28科目のうちから15~17科目32単位を必ず修得しなければならない。

これらの科目は、発展的なデータの解析手法や情報処理技能の習得、文献研究や重要文献の輪

読、心理学の諸領域（各論）におおよそ該当している講義からなっている。

配当年次が複数にわたる科目は、計画的になるべく低年次で履修する方が望ましい。

③ 選択科目

「専門科目」の「卒業要件単位」は84単位であるが、このうち「必修科目」で32単位、「選択必修科目」で32単位、計64単位が充当されるので、残り最低20単位は「選択科目」によって充当することになる。

(a) 「基礎心理学特殊講義 A～J」と「心理学特殊講義 A～J」は、「選択必修科目」の各論的講義においてはカバーできない発展的な特殊問題・領域を取り上げる講義となる。また「精神病理学1（精神疾患とその治療）・精神病理学2」と「心理演習1・2」「心理実習1・2」は、臨床心理学を深めるための医学的内容の講義と臨床心理学諸領域に関する演習・実習の授業である。

「基礎心理学特殊講義 A～J」と「心理学特殊講義 A～J」は、個々の講義の内容が年度ごとに変わる可能性があるため、講義要項を参照すること。心理学のどの側面に興味をもち、学修・研究をしたいかに応じて、選択するとよいであろう。

(b) 前記「選択必修科目」の項であげられた科目のうち、32単位を超えて修得した場合、それらはすべて「選択科目」の単位として算定される。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

「自由選択修得要件単位となる科目」とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに修得しなければならない22単位分の科目の総称である。「自由選択修得要件単位となる科目」に算入されるのは以下の7つである。

- a. 転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した心理学科開講の専門科目の単位。
- e. 心理学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- f. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- g. 心理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は、科目区分にとらわれず、自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ、自由で独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。「卒業要件単位」（計124単位）というのは、あくまで卒業に必要な最低限の学修量を示すに過ぎない。人間性の理解にあたっては、広い視野と多角的な視点をもつ必要があるため、各自の興味と関心の広がりに応じて、選択履修の幅をさらに広げることが望まれる。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

心理学科の「必修科目」は、専門の10科目32単位である。なんらかの理由でこれらの単位を指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。

なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

② 選択必修科目・選択科目の再履修

「選択必修科目」「選択科目」の単位を履修登録年次に修得できなかった場合は、翌年次以降に必ずしも同一名称の科目を「再履修」する必要はない。別の科目の単位を修得して「卒業要件単位」を充たすことが可能である。もちろん再履修してもよい。

(5) 資格取得を希望する者に対する履修上の注意

① 公認心理師国家資格の取得を希望して、国家試験の受験資格を得ようとする場合、大学において公認心理師となるために必要な科目25科目を修めて卒業した後、①大学院において必要な科目を修めてその課程を修了する、または②認定された施設においてプログラムに基づいて実務を経験する必要がある。

本学においては、公認心理師となるために必要な25科目の全てが開講されるが、科目によっては履修できる年次が限られていることに留意し、公認心理師の資格取得を希望する者は、1年次から計画的に履修することが望ましい。

特に以下の実習演習科目2科目については、履修にあたっては授業内容と履修要件を必ず確認すること。

心理演習1・心理演習2 3年次配当科目。授業期間中の定時授業において、心理に関する支援の具体的な場面を想定したシミュレーションや実際の事例を検討すること等を行い、公認心理師に必要な知識や技能を身につける。

心理実習1・心理実習2 4年次配当科目。医療機関等において、公認心理師の行う心理支援とそのチームアプローチや様々な職種の連携について実習指導を受ける。前期及び後期の授業期間以外にも、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働という5つの分野に関する施設における見学等の実習を夏期休業期間中にも実施する。また、定時授業以外で見学実習の前後に行われる指導も受けなければならない。実習時間は合計80時間を超えるものとなる。この科目を履修するにあたっては、「心理演習1」および「心理演習2」の単位を修得していることが必要である。また、この科目の履修にあたっては、所定の期限までに実習指導費を納入しなければならない。

- ② 「認定心理士」について卒業後、社団法人日本心理学会「認定心理士」の資格取得を希望する場合は、同学会が指定する科目を履修して単位を修得し、認定を受けなくてはならない。p.75に学会による科目指定（新基準）の概略と本心理学科の開講科目との対応を示す。
- ③ 「臨床心理士」について将来、財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の資格取得をめざす場合は、原則として、大学院（心理学専攻）の修士課程を修了しなければならないが、学部段階においても、ある程度広い範囲におよぶ基礎的な知識および技能を習得しておく

ことが要望されている。その範囲は、上記「認定心理士」の資格申請に必要な科目範囲に準じるものである。

- ④ 「産業カウンセラー」について一般社団法人日本産業カウンセラー協会の「産業カウンセラー試験」の受験資格は、① 成年に達した者で、協会が行う産業カウンセリングの学識及び技能を修得するための講座を修了した者、あるいは、② 大学院研究科において心理学又は心理学隣接諸科学、人間科学、人間関係学のいずれかの名称を冠する専攻（課程）の修了者であって、同協会が指定する科目を10科目以上、20単位以上を取得していることを要する、となっている。

「認定心理士」資格取得のための科目概要

科目分類	領域	心理学科における該当科目			備考	
		科目名	認定される単位数	配当年次		
(1) 基礎科目	a: 心理学概論	心理学概論 臨床心理学概論 心理学の思想と歴史1, 2	基本主題2 副次主題1 副次主題各1	1 1 3・4	4単位以上 8単位以上 最低4単位分はc心理学実験・実習の単位を含むこと。 合計12単位以上	総計36単位以上1つの科目を2領域の単位として充当することはできない。心理実習1・2は、cの副次主題1単位かgの基本主題1単位のいずれか一方のみで認定を受けること。
	b: 心理学研究法	心理学研究法 心理学データ解析基礎1(心理学統計法), 心理学データ解析基礎2 心理学実験演習1 心理学実験演習2 心理学データ解析応用1, 2	基本主題2 基本主題各1 基本主題4 基本主題4 基本主題各1	1・2 1 3 4 2・3		
	c: 心理学実験・実習	心理学基礎実験1(心理学実験) 心理学基礎実験2 心理学コンピュータ実習1, 2 情報処理心理学実習1, 2 心理実習1, 2	基本主題2 基本主題4 副次主題各1 副次主題各1 副次主題各0.5	1 2 1・2 3・4 4		
	基礎科目小計					
(2) 選択科目	d: 知覚心理学 学習心理学	知覚心理学1, 2 認知心理学1(知覚・認知心理学), 認知心理学2 学習心理学1(学習・言語心理学), 学習心理学2	基本主題各2 基本主題各2 基本主題各2	2・3 2・3 2・3	5領域のうち3領域以上で、それぞれが少なくとも4単位以上必ず基本主題を含むこと。	
	e: 生理心理学 比較心理学	生理心理学1, 生理心理学2(神経・生理心理学)	基本主題各2	2・3		
	f: 教育心理学 発達心理学	発達心理学1(発達心理学), 発達心理学2 教育・学校心理学	基本主題各2 基本主題2	2・3 3・4		
	g: 臨床心理学 人格心理学	臨床心理学1(心理学的支援法), 臨床心理学2 人格心理学1(感情・人格心理学), 人格心理学2 犯罪心理学1(司法・犯罪心理学), 犯罪心理学2 心理的アセスメント 心理実習1, 2	基本主題各2	2・3		
			基本主題各2	2・3		
			基本主題各2 基本主題2 基本主題各1	2・3 3・4 4		
h: 社会心理学 産業心理学	社会心理学1, 社会心理学2(社会・集団・家族心理学) 産業・組織心理学	基本主題各2 基本主題2	2・3 3・4			
選択科目小計				5領域 16単位以上		
その他	i: 心理学関連科目 卒業論文, 卒業研究	卒業論文 心理学講読1 心理学講読2 基礎心理学特殊講義A~J 心理学特殊講義A~J 精神病理学1(精神疾患とその治療), 精神病理学2	4 4 4 各2 各2 各1	4 3 4 3・4 3・4 3・4	基礎心理学特殊講義, 心理学特殊講義は, その内容に応じて, 領域a~hのいずれかの基本主題または副次主題の単位として認定されることがある。(1), (2)の合計単位数が36単位以上の場合は必ずしも必要ではない。	
	総計				総計36単位以上	

人間科学部心理学科 転換・導入科目、教養科目、外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は2単位）。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	
	キャリア基礎科目	キャリア入門					
	情報リテラシー科目	情報入門1 情報入門2					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー スポーツウェルネス (1)			2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 歴史哲学 倫理学入門	ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		8	
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と政治 政治と経済 現代社会	地理学への招待 社会学入門 現代社会学 社会学論 社会学思想 社会学入門	子どもと社会の教育学 情報社会の経営 はじめてのマーケティング 企業と会計			
	自然科学系科目	自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物学3 a 生物学3 b 生物学1 a 生物学1 b 生物学2 a 生物学2 b	化学1 a 化学1 b 化学2 a 化学2 b 化学1 a 化学1 b 化学2 a 化学2 b	物理学2 a 物理学2 b 物理学1 a 物理学1 b 物理学2 a 物理学2 b		数理科3 a 数理科1 a 数理科1 b 数理科2 a 数理科2 b
	融合領域科目		国際科目1 国際科目2 国際科目3 国際科目4	国際科目5 国際科目6 国際科目7 国際科目8	国際科目9 国際科目10 国際科目11 (4) 国際科目12 (4)		
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ) スポーツ論(オリンピックとスポーツ) スポーツ論(スポーツコーチング)	スポーツ論(スポーツライフデザイン論) スポーツ論(人類とスポーツ) スポーツ論(トレーニング科学)			
外国語科目	英語	A 群	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)			4	
		B 群	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)				
			General English (1)				
		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		
英語以外の外国語	導入	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1) 中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1) ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) 韓国語初級1 a (1) 韓国語初級1 b (1) 韓国語初級2 a (1) 韓国語初級2 b (1)				8	
		基礎	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)		ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) 韓国語中級1 a (1) 韓国語中級1 b (1) 韓国語中級2 a (1) 韓国語中級2 b (1)
		応用	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)				
			選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択韓国語1 a (1) 選択韓国語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		
			世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)		世界の言語と文化(韓国語)
海外語学研修		言語文化研究(ヨーロッパ) 1 言語文化研究(ヨーロッパ) 2	言語文化研究(アジア) 1 言語文化研究(アジア) 2	言語文化研究(アメリカ)			
	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					
	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)				



【外国人留学生】人間科学部心理学科 転換・導入科目、教養科目、外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	
	キャリア基礎科目	キャリア入門					
	情報リテラシー科目	情報入門1 情報入門2					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
保健体育基礎科目	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)			2		
	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4		
人文科学基礎科目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 哲学 倫理学 論理学入門	ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		4	
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治と社会 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 社会学入門	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計			
自然科学系科目	自然科学系科目	自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4) 生物科学1 a 生物科学1 b 生物科学2 a 生物科学2 b	生物科学3 a 生物科学3 b 宇宙地球科学1 a 宇宙地球科学1 b 宇宙地球科学2 a 宇宙地球科学2 b	化学1 a 化学1 b 化学2 a 化学2 b 物理学1 a 物理学1 b	物理学2 a 物理学2 b 数理科学1 a 数理科学1 b 数理科学2 a 数理科学2 b	数理科学3 a 数理科学3 b 科学論1 a 科学論1 b 科学論2 a 科学論2 b	4
	融合領域科目		学際科目1 学際科目2 学際科目3 学際科目4	学際科目5 学際科目6 学際科目7 学際科目8	学際科目9 学際科目10 学際科目11 (4) 学際科目12 (4)		
保健体育系科目	保健体育系科目		アドバンストスポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ) スポーツ論(オリンピックとスポーツ) スポーツ論(スポーツコーチング)	スポーツ論(スポーツライフデザイン論) スポーツ論(人類とスポーツ) スポーツ論(トレーニング科学)			
	日本語	導入 日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)		応用日本語理解1 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現2 (1)		8	
外国語	英語	A Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1) B Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)		Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		
	母語以外の外国語	導入 ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1) 中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1) ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) 韓国語初級1 a (1) 韓国語初級1 b (1) 韓国語初級2 a (1) 韓国語初級2 b (1)	基礎 ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	応用 ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) 韓国語中級1 a (1) 韓国語中級1 b (1) 韓国語中級2 a (1) 韓国語中級2 b (1)		8
外国語	基礎		ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)				
	応用		ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)				
外国語	選択		選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択ロシア語1 a (1) 選択ロシア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		
	世界の言語と文化	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)		
海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					
	海外語学中期研修	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			

人間科学部心理学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			卒業要件 単 位	備 考
	科目名	単位	必・選	科目名	単位	必・選	科目名	単位	必・選	科目名	単位	必・選		
転換・導入科目													2	
教養科目													8	
外国語科目													8	
専 門 科 目	心理学基礎実験1 (心理学実験)	2	○	心理学基礎実験2	4	○	心理学実験演習1	4	○	心理学実験演習2	4	○	32	10科目32単位必修
	心理学概論	2	○				心理学講読1	4	○	卒業論文	8	○		
	臨床心理学概論	2	○											
	心理学データ解析基礎1 (心理学統計法)	1	○											
	心理学データ解析基礎2	1	○											
	心理学コンピュータ実習1				2	◎							32	32単位選択必修
	心理学コンピュータ実習2				2	◎								
	心理学研究法				2	◎								
				知覚心理学1	2	◎								
				知覚心理学2	2	◎								
			認知心理学1 (知覚・認知心理学)	2	◎									
			認知心理学2	2	◎									
			学習心理学1 (学習・言語心理学)	2	◎									
			学習心理学2	2	◎									
			生理心理学1	2	◎									
			生理心理学2 (神経・生理心理学)	2	◎									
			発達心理学1 (発達心理学)	2	◎									
			発達心理学2	2	◎									
			社会心理学1	2	◎									
			社会心理学2 (社会・集団・家族心理学)	2	◎									
			人格心理学1 (感情・人格心理学)	2	◎									
			人格心理学2	2	◎									
			臨床心理学1 (心理学的支援法)	2	◎									
			臨床心理学2	2	◎									
			犯罪心理学1 (司法・犯罪心理学)	2	◎									
			犯罪心理学2	2	◎									
			心理学データ解析応用1	1	◎									
			心理学データ解析応用2	1	◎									
						心理学の思想と歴史1	2	◎						
						心理学の思想と歴史2	2	◎						
						情報処理心理学実習1	2	◎						
						情報処理心理学実習2	2	◎						
									心理学講読2	4	◎			
			公認心理師の職責							2	△	20	20単位選択 専門選択必修科目の 超過修得単位は選択 科目の単位に算入さ れます。	
			人体の構造と機能及び疾病 関係行政論							2	△			
						基礎心理学特殊講義A	2	△						
						基礎心理学特殊講義B	2	△						
						基礎心理学特殊講義C	2	△						
						基礎心理学特殊講義D	2	△						
						基礎心理学特殊講義E	2	△						
						基礎心理学特殊講義F	2	△						
						基礎心理学特殊講義G	2	△						
						基礎心理学特殊講義H	2	△						
						基礎心理学特殊講義I	2	△						
						基礎心理学特殊講義J	2	△						
						心理学特殊講義A (障害者・障害児心理学)	2	△						
						心理学特殊講義B	2	△						
						心理学特殊講義C	2	△						
						心理学特殊講義D	2	△						
						心理学特殊講義E (福祉心理学)	2	△						
						心理学特殊講義F	2	△						
						心理学特殊講義G	2	△						
						心理学特殊講義H (健康・医療心理学)	2	△						
						心理学特殊講義I	2	△						
						心理学特殊講義J	2	△						
						精神病理学1 (精神疾患とその治療)	2	△						
						精神病理学2	2	△						
						心理的アセスメント	2	△						
						産業・組織心理学	2	△						
						教育・学校心理学	2	△						
						心理演習1	1	△	心理実習1	1	△			
						心理演習2	1	△	心理実習2	1	△			
自由選択 修得要件 単位と なる科目	心理学科の学生に受講が認められている転換・導入科目、教養科目、外国語科目、人間科学部の専門科目。教職・司書・司書教諭課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。											22	転換・導入科目、教養科目、外国語科目、専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。	
年次修得 単位の 目 安	38			38			36			12			124	

社会学科

I 社会学科の学生のために

1. 社会学科の特色

社会学は現実認識の学として、社会の全体的な構造やその変動の法則、そしてそこに生きる人間そのものを研究するという目的をもっている。こうした目的のもとで、具体的にはさまざまな社会現象を、主として社会関係や社会集団などの「共同生活」の諸側面から、経験的・実証的な方法で研究する。

以上のような考え方にもとづき社会学科では、人びとの日常生活の場を主要な研究・学修の領域とし、そこに現れてくる人間の行為や意識、社会関係や組織などの実態を調査・研究することにより、現代社会の構造とその問題性を明らかにし、それがどこから生じ、どこに行くのか、過去と現在との対話をとおして未来を見とおすことを目指している。そのために、「文化・システム」系、「生活・福祉」系、「地域・エリアスタディーズ」系という3つのゆるやかに結びあう研究・学修領域を設定している。

「文化・システム」系では、経験的調査と社会理論、社会構造と社会意識を接続しながら、社会と個人の全体的解明を目指す。「生活・福祉」系においては、人の生活の場としての「家庭と職場」、人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に、人間生活の基礎的単位の基本的な理解と、それらを踏まえた上での実証的研究を目指す。「地域・エリアスタディーズ」系領域では、生活が営まれる地域に焦点をあわせ、現代の地域がグローバル化の過程におかれている現状を踏まえ、地域、都市の構造と変容を実証的に研究する。

この3つの系に専任教員が担当する16の専門的学修分野を配置し、さらに「現実科学としての社会学」「実証科学としての社会学」であることを前提に、調査研究とゼミナール教育を重視したカリキュラムを組んでいる。

社会学科では、①個人的な問題が社会の諸制度とのかかわりの中で生じていることを理解した上で、社会学の知識や理論を修得していること。②社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得し、自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができること。③諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者理解を深めることができること。④これらの能力を総合的に駆使して、社会における実践的な要請に応えるようにすること、を教育目標としている。これらの教育をとおして、(1)社会状況を的確に判断し、企業、自治体、公共機関、教育機関、市民団体、各種調査研究機関、国際機関等々で、現場に立ちながら着実に活動できる人材、(2)大学院に進学し、将来研究者として学問の発展に寄与する人材ならびに専門的職業人の育成を目指している。

2. 1年次でどう学ぶか

大学での学修は、あらかじめ設定された時間割表が与えられ受動的に履修をする高等学校までの学修とは異なり、自らの関心にあわせて自分で科目を選択し、同時に、決められた卒業要件の必修単位は最低限満たすように、自分で履修を組んでいかなければならない。これは、「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」いずれについても同じである。

社会学科が設けている「専門科目」には、「講義」・「実習」・「ゼミナール」の3つの授業形式がある。科目の学年配当に留意しつつ、自らの関心や将来の目標に見合った、主体的に学ぶ「私なりの時間割」を作成してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが、1年次には修得目標として最低限38単位を目安に、履修計画を立ててほしい。「教養科目」のうち「人文科学基礎科目」「社会科学基礎科目」は1・2年次にしか開講されていない。「教養科目」のその他の科目についても、上級年次になると専門科目の履修が多くなるので、教養科目をできるだけ低年次で履修しておくことが望まれる。

「専門科目」は、1年次には「社会学原論1, 2」「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」「データ分析法実習」が必修科目としておかれている。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については、p. 23「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、社会学科の学生は、以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読んで、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、要求されるものが何であるかを確認してほしい。

人間科学部社会学科

区 分		卒業要件単位		備 考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専 門 科 目	必 修 科 目	32	82	
	選 択 必 修 科 目	28		
	選 択 科 目	22		
自由選択修得要件単位		20		
卒 業 要 件 単 位		124		

[社会学科]

【外国人留学生】 人間科学部社会学科

区 分		卒業要件単位		備 考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教 養 科 目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
保健体育系科目				
外国語科目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専 門 科 目	必 修 科 目	32	82	
	選 択 必 修 科 目	28		
	選 択 科 目	22		
自由選択修得要件単位		20		
卒 業 要 件 単 位		124		

[社会学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってほしい。

- ① 「転換・導入科目」で6単位以上、「教養科目」8単位以上、「外国語科目」8単位以上、「専門科目」82単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」20単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この条件も充たすように毎年の履修計画を立ててほしい。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。一度に同一名称の科目を2つ以上履修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

さらに具体的な履修方法について以下に詳説するが、教養科目については pp.99～100 の「人間科学部社会科学転換・導入教育科目、教養科目、外国語科目一覧」、専門科目については pp.103～104 の「人間科学部社会科学専門科目一覧」を参照しながら、カリキュラムの大筋をつかんでほしい。

(1) 転換・導入科目、教養科目、外国語科目の履修方法

転換・導入科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目は p.35 に、教養科目については pp.41～48 に、外国語科目については pp.49～60 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換・導入科目

- ① 専修大学入門科目、専門入門ゼミナール、保健体育基礎科目

専修大学入門科目、専門入門ゼミナールは、1年次にそれぞれ半期2単位、保健体育基礎科目は、それぞれ半期1単位、合計6単位を必ず修得しなければならない。

- ② 上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2) 教養科目

- ① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので、履修する際には

注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1, 2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3, 4年次で再履修することはできない。また、融合領域科目は2年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。

- ② 8単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (RL) 1a (前期), 1b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (SW) 1a (前期), 1b (後期) の2科目を履修する。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級1a (前期), 初級1b (後期) の2科目と、初級2a (前期), 初級2b (後期) の2科目を履修する。

- ③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目 (pp.103～104「人間科学部社会学科専門科目一覧」で○印のついた科目)、開講された科目の中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目 (◎印のついた科目)、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目 (△印のついた科目) の3通りがある。

なお、科目の中には、年間を通して授業を行う通年科目と、半年で完了する半期科目とがある。また、毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがある。履修計画を立てる上で、注意してほしい。

その上で、可能な範囲で出来るだけ多く履修し、幅広い学修を通して、総合的な視野を持つようにしてほしい。

A. 社会学科のカリキュラム編成の特徴

専門科目の履修方法を説明するにあたって、まず、社会学科のカリキュラム編成の特徴を簡単に示すと、次頁のようになる。

教育システム（カリキュラム編成）の特徴

(1) 主要研究・学修領域と専門学修分野

1) 基礎部門

- ① 社会学の基礎 社会学原論, 社会調査の基礎, データ分析法実習

2) 専門領域

- ① 「文化・システム」系 現代社会論, 比較社会論, ネットワーク・メディア論, 社会意識論, 現代文化論, 教育と社会
- ② 「生活・福祉」系 生活の社会学, 家族の社会学, 仕事の社会学, 福祉の社会学, 学びの社会学, ケアの社会学, 民俗学
- ③ 「地域・エリアスタディーズ」系 地域社会学A (地域社会変動), 地域社会学B (環境・災害・コミュニティ), 地域社会学C (エスニシティと都市), エリア・スタディーズA (グローバル都市論), エリア・スタディーズB (地域・国家・アイデンティティ)

(2) 教育方法

① ゼミナール教育の重視

専修大学入門ゼミナール (1年次前期必修)

専門入門ゼミナール (1年次後期必修)

専門ゼミナールA (研究テーマ別の演習 3年次必修)

専門ゼミナールB (専門ゼミナールAと連続で履修し研究を深化させ, 卒業論文につなげる 4年次必修)

※ゼミナールに準じた科目, 文献研究Aおよび社会調査実習A (2年次必修) もある。

② 調査・実証教育の重視

実証研究の基礎であり社会学方法論の基礎ともなる「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」(1年次必修)の設置

2・3年次連続の「社会調査実習A, B」(Aは2年次必修, Bは3・4年次選択)の設置

分析方法としての「データ分析法実習」(1年次必修)と「統計学実習」(1年次選択), 「多変量解析法実習」(2・3・4年次選択), 「質的分析法」(2・3・4年次選択)の設置

※上記はすべて, 社会調査士資格取得の際の必修科目となる。

③ 特殊講義の設置

主要研究・学修領域, 専門的学修分野に関連した講義, 時代の変容に対応する個性あ

る講義科目の設置

④ 単位履修の柔軟性

他学科・他学部との単位の互換性を推進するため、卒業に必要な学科の専門科目の最低履修単位数を少なくし（82単位）、学際的に学べるようにするとともに、他方では社会学科の専門科目を102単位以上履修できるように科目設置し、専門をより深く学ぶことも可能にしている。

⑤ 卒業論文の必修

本学社会学科で学修・研究したことの集大成としての論文執筆

以上の特徴あるカリキュラム編成のもとで、社会学科に所属する学生は、次に示す研究・学修領域と専門学修分野を履修できるようにしている。

〈研究・学修領域と専門学修分野〉

(1) 基礎部門

社会学の歴史や理論、社会学的研究の方法、社会調査の理論と技法などを学び、社会学の基礎知識・社会学的思考を身につける。

- ① 社会学原論 社会学の理論と社会学的思考法を学ぶ。
- ② 社会調査の基礎 社会学の方法論と社会調査の基礎を学ぶ。
- ③ 調査設計と実施方法 社会調査を実施するための技法を学ぶ。
- ④ データ分析法実習 データ分析の技法を学ぶ。

(2) 専門分野

1) 「文化・システム」系

経験的調査と社会理論、社会構造と社会意識を接続しながら、個人と社会の全体的解明を目指している。人びとの意識・文化とその背景にある社会構造との解明を目標に、調査、統計、文献を用いて実証的／理論的な社会学的方法によって現代社会を幅広く研究し、多角的視点から社会構造と行為の間の因果関係を分析的に理解し説明できる力を育成する。

- ① 現代社会論 現代社会の構造を規定している社会階層の動向をにらみながら、現代社会を全体的に論じてゆく専門分野。
- ② 比較社会論 社会システム、体制といったようなマクロな観点から社会構造と社会変動などを学んでいく専門分野。
- ③ ネットワーク・メディア論 激変するメディア環境を主な対象とし、メディア・コミュニケーションに関する理論と実証研究の成果を学ぶ専門分野。
- ④ 社会意識論 個人レベルでの社会的相互行為論を、全体社会レベルでの社会構造論に接続させてゆく理論を学ぶ専門分野。
- ⑤ 現代文化論 現代社会における変貌著しい文化のあり方を、社会構造や社会階層との関連で論じてゆく専門分野。国境を越えて広がるグローバルな文化論を学ぶ。

- ⑥ 教育と社会 子どもが育ちゆく過程や仕組みに注目しながら、社会の構造・価値観・諸問題について理論や事例を媒介にして学ぶ専門分野。

2) 「生活・福祉」系

生活の場としての「家庭と職場」、人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に、人間生活の基礎的単位とそのつながりや関係についての基本的な理解と実態的、事象的な把握を目指している。

- ① 生活の社会学 現代社会の現実を、生活構造やライフスタイルの側面から研究する専門分野。
- ② 家族の社会学 家族をめぐる諸現象の分析を通して、変貌する家族と家族の将来を研究する専門分野。
- ③ 仕事の社会学 労働の「意味」、職業をめぐる集団、労使関係、そして働く者の生活や意識、産業を中心とする地域構造の変化などを学ぶ専門分野。
- ④ 福祉の社会学 社会福祉に関する諸問題と人々の生活、それに対応するサービスの歴史的展開と現状の分析をとおして、社会福祉のあり方を学ぶ専門分野。
- ⑤ ケアの社会学 現代社会における人々の生活問題、特に高齢者・その他の援助を必要とする人々の介護・ケアをめぐる諸問題とそれに対応する制度やサービスの政策的・実践的展開、現状の理解と分析をすることで、社会福祉の在り方を学ぶ専門分野。
- ⑥ 民俗学 民間伝承・知識を素材に「常民」の生活をたどり、日本社会の文化的・思想的根源と現代日本の生活・文化への「継続」を明らかにする専門分野。
- ⑦ 学びの社会学 学ぶとは人の本性である。生涯にわたるその学びを見つめ、善き学びを実現する方法と支援のあり方を人間科学の知見から探求する専門分野。

3) 「地域・エリアスタディーズ」系

人びとの生活と、生活が営まれる地域に焦点を合わせた社会学の学修・研究を目標にする。現代の地域がグローバリゼーション過程におかれている現状を認識し、グローバル化のなかでの地域、都市の構造と変容の実証的、経験的な理解を目指す。

- ① 地域社会学A 地域社会のしくみと住民の生活への働きを理解し、その変動を人びとの共同の実践として捉えることをとおして、現代社会の変容を明らかにする専門分野。
- ② 地域社会学B 地域開発や災害などを契機とする劇的な生活変容としての「生活環境」の問題に焦点をあわせ、現代社会の問題を研究する専門分野。
- ③ 地域社会学C 都市に生ずる諸問題、生成するネットワークやコミュニティ、そして人びとの生き方などを手がかりに、現代社会の性格を学ぶ専門分野。
- ④ エリア・スタディーズA グローバル都市の問題を切り込み口に、グローバル化にともなうマイグレーション・ネットワークの形成、移住のプロセス、地域社会の多様化と統合の問題を研究する専門分野。
- ⑤ エリア・スタディーズB グローバル化にともなって生じる民族関係の変容やナショナルリズムの展開、国民国家の変容とアイデンティティ変容の問題を研究する専門分野。

これらの学び方については、諸分野のうちからひとつの分野を選び、それを集中的に学ぶやり方もあれば、また、特定分野を選びつつもその他の諸分野を横断するような課題を設定して研究・学修を進めるやり方もある。いずれにせよ、ひとつの専門分野、問題を深めようとすれば、おのずから他の専門分野、他の諸科学の広い学修も不可欠になっていく。それぞれが主体的な学修計画を立てることが望ましい。

なお、社会学科で「社会調査士」の資格を取得するための独自のカリキュラムも用意している（資格については、後述の「E. 社会学における資格取得について」を参照のこと）。

さらに深く社会学の諸領域に関する高度な研究・学修を望む人、あるいはより専門的な職業人を目指し教育を受けたいと望む人には、大学院で学ぶ道が開かれている。

B. 必修科目

社会学原論 1, 2 社会学の基本的なものの見方、考え方を学ぶ。これから社会学を学んでいこうとする学生にとってのイントロダクションとなる科目である。

社会調査の基礎, 調査設計と実施方法 社会調査は、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつである。「社会調査の基礎」、「調査設計と実施方法」では、社会調査に関する基礎知識を修得し、具体的な方法を理解すると同時に、社会調査の根底に流れる社会学的思考法についても理解を深める。

社会調査実習 A および文献研究 A 2年次で、「社会調査実習 A」および「文献研究 A」の2科目を履修しなければならない。いずれも少人数の演習ないし実習形式による授業であり、ゼミナールに準ずる重要な科目である。

- ① **社会調査実習 A** 社会調査は、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつであり、2年次に「社会調査実習 A」が置かれている。さらに社会調査を継続して実践的に学修したいと考える学生には、「社会調査実習 A」の単位修得を前提条件として、3年次以降に履修可能な「社会調査実習 B」が、選択科目として用意されている。実習科目は、通年で行われる「授業」と主に夏期休暇中に行われる「実査」とがセットになっており、履修者は、必ずこの双方に出席しなければならない。なお、「実査」にかかる交通費・宿泊費の費用は自己負担となっている。
- ② **文献研究 A** 文献研究は、主として社会学の学修全般に必要な基礎概念や方法、テーマ等に関する基本的な知識、考え方を体得するために、特に社会学の古典として評価された文献の講読を行うものであり、2年次に「文献研究 A」が置かれている。古典的な研究や理論的な研究をさらに深めたいと考える学生には、「文献研究 A」の単位修得を前提条件として、3年次以降に履修可能な「文献研究 B」が、選択科目として用意されている。

ゼミナール テキストの講読・討論、あるいは各自のテーマ別学修の報告・討論などの形式により、特定問題についての研究を、原則として少人数で行うものである。

- ① **専門入門ゼミナール** 文献の読み方や発表の仕方などの具体的な学修方法を含めた大学での基本的な研究・学修スタイルを身に付けたり、社会学への興味や関心を呼び起こし、今後の研究・学修の助走をつけることを目指す、新入学生のための科目である。

② 専門ゼミナールA 1年次の「専門入門ゼミナール」や、2年次の「社会調査実習A」、「文献研究A」、講義等で学んだことを基礎に、学生個々人が最も関心を持つ社会学の領域・分野を決定し、それを専門的に研究していくためのゼミナールである。学生は、各人の興味関心に沿って、開講されているゼミナール群からひとつを選択する。なお、この科目は、後述の卒業論文の作成のための研究を主とする「専門ゼミナールB」と連続するので、各人のテーマに沿って慎重に選ぶこと。

③ 専門ゼミナールB 「専門ゼミナールA」と連続している科目であり、3年次で学修・研究したことを基礎に、大学生活の集大成として、担当教員の指導のもとで論文作法を学びつつ、卒業論文を書くための文献講読や調査結果のとりまとめを行う。

卒業論文 社会学科に所属する学生は、4年次で、大学における学修・研究の総決算として「卒業論文」を執筆することが義務づけられている。なお、卒業論文は、所定の期日までに提出し、論文に関する口述試験に合格しなくてはならない（卒業論文については p. 25 参照）。

必修科目のとり方として、「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」はそれぞれ、同一年次に同じ名称の科目を複数履修することはできない。さらに、「専門ゼミナールB」の履修は「専門ゼミナールA」の単位を修得した上でないと認められないし、また、「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」を同一年次に同時履修することも認められないので、注意すること。

また、卒業論文の提出は、「専門ゼミナールB」の履修が要件になっている。（ただし、特例として、3年次で留学（協定校）の場合には、4年次での「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」の同時履修と卒業論文の提出を認める。）

C. 選択必修科目

専門講義科目 2・3・4年次では、社会学をさらに専門的に学んでいく上に必要な基礎・関連領域の専門講義科目が36科目、選択必修科目として置かれている。社会学科の学生は、これらの科目群のうち、14科目28単位以上を必ず履修しなければならない。また、専門分野の科目には必ず「専門ゼミナールA・B」と「卒業論文」作成が連動することになる。

D. 選択科目

「社会調査実習B」、「文献研究B」、「社会学特殊講義A～F」、その他が選択科目として置かれている。

このうち、「社会調査実習B」と「文献研究B」は、2年次で履修した「社会調査実習A」、「文献研究A」それぞれのテーマをさらに深化させ、3年次ゼミナールでの各人の関心を文献や調査研究という側面からサポートするために置かれている科目である。

「社会学特殊講義A～F」は、社会学の基礎としての選択必修科目群を補完する講義や、それに関連する他専門分野の講義および今日的なテーマを取り上げる講義から成っており、各人の興味関心に沿って履修する。

なお、心理学科の一部の科目については、自由選択単位となる科目に繰り入れることができる。

前述のように社会学は、幅広い対象領域を含むものであるから、自らのテーマを明確にし、それを中心に関連する科目を自主的、計画的に選択することが望まれる。

E. 社会学における資格取得について

社会調査士資格の取得について

2004年度から社会調査協会によって、「社会調査士」の資格が認定されている。現在社会学科に設置してある「社会調査士資格関連科目（以下、「資格関連科目」とする）」を履修することによって、「社会調査士」資格を申請する条件を整えることができる。

① 社会調査とはなにか

社会調査は社会学では不可欠の現実認識の手段であるが、現在では社会学という学問分野を超えて官公庁、企業活動など社会と密接なかかわりをもつ領域においても注目されている方法である。国や地方自治体が行う「国勢調査」や「消費動向調査」、新聞社やテレビ局が行う「世論調査」や「政党支持率調査」、企業が行う「市場調査」や「需要予測調査」など、行政の政策・計画立案、企業活動の方針・計画決定などになくってはならないものになりつつある。

② 社会調査士とは

社会調査士とは、以上のような社会的要請に応えられる人材の能力に対して、社会調査協会（日本社会学会をはじめとする諸学会が設立した一般社団法人）が、その調査能力について、資格関連科目を履修したことをふまえて認定するものである。社会調査士にはさまざまな調査を企画、実施、集計・分析し、調査レポートの取りまとめやプレゼンテーションなど、社会調査実務担当者としての十分な能力が必要とされる。なお、資格関連科目とは、社会調査協会の定める標準カリキュラム科目（⑤を参照）に対応しているものであり、協会によって資格取得条件として認定された科目のことである。

③ 社会調査士資格取得のメリットと注意点

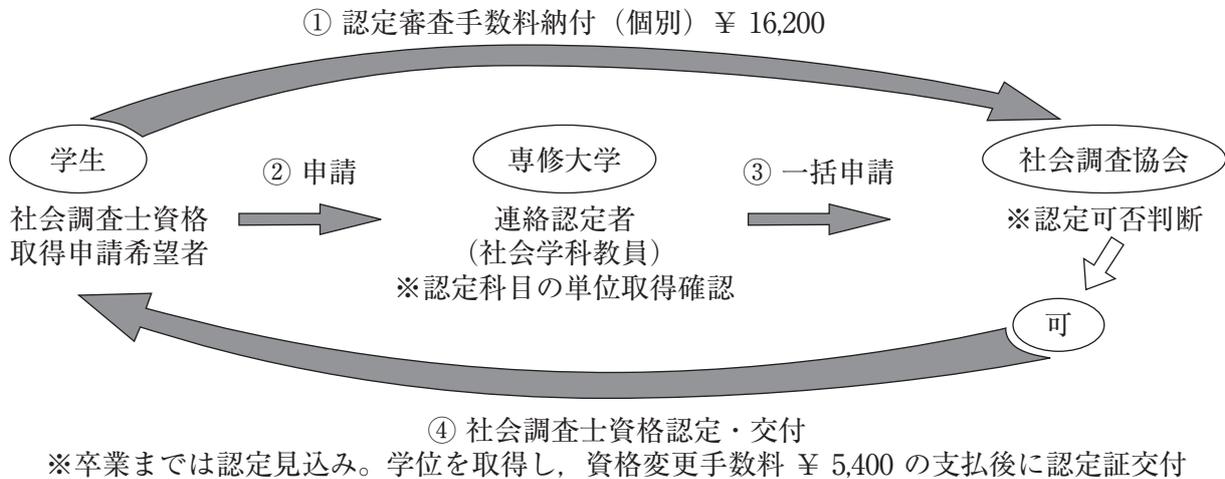
社会調査士資格は、今後官公庁、企業などにおいて実務担当者の能力の一環を示すものとして認知されていく可能性が高い。しかし同時に、資格認定はその実力を示すものでなくならず、単に科目を履修すればよいというものでなく、はっきりとした目的意識をもって積極的に学んだものに与えられるべきものである。

したがって調査士の資格を取得しようとするものは相応の覚悟と努力で勉学に臨む必要がある。

④ 社会調査士資格の取得方法

社会調査士の資格は次のような手順で取得できることになっている。まず、資格取得希望者は、社会調査協会の定める標準カリキュラムに対応した学内の資格関連科目の単位を修得することが前提となる。次に社会調査協会に審査手数料を納付し（図の①）、所定の書類を添えて本学「連絡責任者」（社会学科教員が担当）に申請の依頼を行う（図の②）。「連絡責任者」が学生の申請をとりまとめて協会に申請を行う（図の③）。その際に、本学科内規にしたがい、優秀な成績を修め社会調査士としての十分な能力を備えていると判断される者のみを「連絡責任者」は申請する。単位を修得していても成績不良のため能力に満たないと判断される学生に

については、取りまとめ申請を行わない場合がありうる。認定の可否は、社会調査協会によって行われ、認可された者には学位取得後、資格変更手数料を納付することによって、認定証が交付される（図の④）。申請のための内規についてはガイダンスなどで詳しく説明する。



図：社会調査士資格取得の流れ

- ⑤ 社会調査士資格関連科目（カッコ内A～Fが社会調査協会の定める標準カリキュラム科目の名称である。資格の申請にはA～DおよびGの5科目と、EとFのいずれかの1科目の計6科目の単位取得が必要である。）

「社会調査の基礎」（A. 「社会調査の基本事項に関する科目」）

「調査設計と実施方法」（B. 「調査設計と実施方法に関する科目」）

「データ分析法実習」（C. 「基本的な資料とデータ分析に関する科目」）

「統計学実習」（D. 「社会調査に必要な統計学に関する科目」）

「多変量解析法実習」（E. 「量的データ解析の方法に関する科目」）

「質的分析法」（F. 「質的なデータ分析の方法に関する科目」）

「社会調査実習A」（G. 「社会調査の実習を中心とする科目」）

- ⑥ 履修モデル

望ましい履修モデルを示せば、次の通りとなる。

1年次で 「社会調査の基礎」(A), 「調査設計と実施方法」(B), 「データ分析法実習」(C)
「統計学実習」(D)

2年次で 「多変量解析法実習」(E) もしくは「質的分析法」(F), 「社会調査実習A」(G)

社会調査士に関する詳しい情報は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp>) を参考にすること。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは、以下の7つになる。

- a. 転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した社会学科開講の専門科目の単位。
- e. 社会学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- f. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- g. 社会学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は、の科目区分にとらわれず、自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでももらいたい。

なお、「卒業要件単位」(計124単位)は卒業に必要な最低限の学修であり、より裾野を広げた学修を主体的に組んでゆくことが期待される。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

「必修科目」の単位をなんらかの理由で指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目は、すべてに優先して履修しなければならないことを銘記しておいてほしい。

なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

「選択必修科目」および「選択科目」の単位を修得できなかった場合は、翌年次以降に同一名称の科目を「再履修」してもよいが、必ずしも同一名称の科目を「再履修」せずに、選択科目群内の別の科目の単位を修得して「卒業要件」を充たすことも可能である。

人間科学部社会学科 転換・導入科目、教養科目、外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	6	
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2		
	キャリア基礎科目	キャリア入門					
	情報リテラシー科目	情報入門1 情報入門2					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
保健体育基礎科目	スポーツリテラシー スポーツウェルネス	(1) (1)			2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界と現代 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆文化 歴史と社会 歴史と文化 歴史と心理 歴史と哲学	論理学入門 論理学入門 論理学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		8	
	社会科学基礎科目	日本と社会 政治と経済 現代の社会	社会学への招待 社会学入門 社会学入門 社会学入門 社会学と社会の教育学	情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計			
	自然科学系科目	自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 生物学1a 生物学1b 生物学2a 生物学2b	生物学3a 生物学3b 生物学1a 生物学1b 生物学2a 生物学2b	化学1a 化学1b 化学2a 化学2b 物理学1a 物理学1b	物理学2a 物理学2b 物理学1a 物理学1b 物理学2a 物理学2b		数理学3a 数理学3b 数理学1a 数理学1b 数理学2a 数理学2b
	融合領域科目		国際科目1 国際科目2 国際科目3 国際科目4	国際科目5 国際科目6 国際科目7 国際科目8	国際科目9 国際科目10 国際科目11(4) 国際科目12(4)		
	保健体育系科目				アドバンストスポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ) スポーツ論(オリンピックとスポーツ) スポーツ論(スポーツコーチング)		スポーツ論(スポーツライフデザイン論) スポーツ論(人類とスポーツ) スポーツ論(トレーニング科学)
外国語科目	英語	A 群	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)			4	
		B 群	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)				
			General English (1)				
		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		
英語以外の外国語	導入		ドイツ語初級1a (1) ドイツ語初級1b (1) ドイツ語初級2a (1) ドイツ語初級2b (1) フランス語初級1a (1) フランス語初級1b (1) フランス語初級2a (1) フランス語初級2b (1) 中国語初級1a (1) 中国語初級1b (1) 中国語初級2a (1) 中国語初級2b (1) スペイン語初級1a (1) スペイン語初級1b (1) スペイン語初級2a (1) スペイン語初級2b (1) ロシア語初級1a (1) ロシア語初級1b (1) ロシア語初級2a (1) ロシア語初級2b (1) インドネシア語初級1a (1) インドネシア語初級1b (1) インドネシア語初級2a (1) インドネシア語初級2b (1) コリア語初級1a (1) コリア語初級1b (1) コリア語初級2a (1) コリア語初級2b (1)			4	
		基礎	ドイツ語中級1a (1) ドイツ語中級1b (1) ドイツ語中級2a (1) ドイツ語中級2b (1) フランス語中級1a (1) フランス語中級1b (1) フランス語中級2a (1) フランス語中級2b (1) 中国語中級1a (1) 中国語中級1b (1) 中国語中級2a (1) 中国語中級2b (1) スペイン語中級1a (1) スペイン語中級1b (1) スペイン語中級2a (1) スペイン語中級2b (1) ロシア語中級1a (1) ロシア語中級1b (1) ロシア語中級2a (1) ロシア語中級2b (1) インドネシア語中級1a (1) インドネシア語中級1b (1) インドネシア語中級2a (1) インドネシア語中級2b (1) コリア語中級1a (1) コリア語中級1b (1) コリア語中級2a (1) コリア語中級2b (1)				
				ドイツ語上級1a (1) ドイツ語上級1b (1) フランス語上級1a (1) フランス語上級1b (1) 中国語上級1a (1) 中国語上級1b (1) スペイン語上級1a (1) スペイン語上級1b (1)	ロシア語上級1a (1) ロシア語上級1b (1) インドネシア語上級1a (1) インドネシア語上級1b (1) コリア語上級1a (1) コリア語上級1b (1)		
			選択ドイツ語1a (1) 選択ドイツ語1b (1) 選択フランス語1a (1) 選択フランス語1b (1) 選択中国語1a (1) 選択中国語1b (1)	選択スペイン語1a (1) 選択スペイン語1b (1) 選択コリア語1a (1) 選択コリア語1b (1) 選択アラビア語1a (1) 選択アラビア語1b (1)	選択イタリア語1a (1) 選択イタリア語1b (1)		
		世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)		
		言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)			
海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					
		海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			

【外国人留学生】人間科学部社会学科 転換・導入科目、教養科目、外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	6		
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2			
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門1 情報入門2						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
保健体育基礎科目	スポーツリテラシー スポーツウェルネス	(1) (1)			2			
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4	8		
	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学	論理学入門 こぼ論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代			・卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・教養テーマゼミナール論文は、教養テーマゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。	
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会科学論 社会思想 教育学と社会の子	情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計			・教養テーマゼミナール論文は、教養テーマゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。	
	自然科学系科目	自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物学3 a 生物学3 b 宇宙地球科学1 a 宇宙地球科学1 b 宇宙地球科学2 a 宇宙地球科学2 b	化学1 a 化学1 b 化学2 a 化学2 b 物理学1 a 物理学1 b	物理学2 a 物理学2 b 数理科学1 a 数理科学1 b 数理科学2 a 数理科学2 b		数理科学3 a 数理科学3 b 科学論1 a 科学論1 b 科学論2 a 科学論2 b	・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。
	融合領域科目		国際科目1 国際科目2 国際科目3 国際科目4	国際科目5 国際科目6 国際科目7 国際科目8	国際科目9 国際科目10 国際科目11 (4) 国際科目12 (4)			・アドバンススポーツは、種目にかかわらず、複数履修することができます。
			テーマ科目 新領域科目1 新領域科目2 新領域科目3 新領域科目4 新領域科目5					
			キャリア科目1 キャリア科目2					
			教養テーマゼミナール1 (4)	教養テーマゼミナール2 (4)	教養テーマゼミナール3 (4)			
				教養テーマゼミナール論文				
			アドバンススポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ) スポーツ論(オリンピックとスポーツ) スポーツ論(スポーツコーチング)		スポーツ論(スポーツライフデザイン論) スポーツ論(人類とスポーツ) スポーツ論(トレーニング科学)			
外国語科目	日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)			8	・前期「1」と後期「2」はセットで履修しますが、前期「1」を単位修得できない場合は後期「2」の履修ができません。 ・1年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。		
		応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1)	応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)			・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
	A群	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
	B群	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)				・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b	・English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで履修することができます。		
	導入	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1) 中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1) ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) イタリア語初級1 a (1) イタリア語初級1 b (1) イタリア語初級2 a (1) イタリア語初級2 b (1)				8	・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目は、同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。	
	基礎		ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1)	・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は、2単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。	
	応用			ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)				・「応用」の各科目は、同一年度に2単位、年度を越えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで履修することができます。
			選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択ロシア語1 a (1) 選択ロシア語1 b (1) 選択インドネシア語1 a (1) 選択インドネシア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択1 a・bを履修するためには、母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級1 a・bと初級2 a・bをすべて(4科目4単位)修得していなければなりません。 ・選択1 a・bを履修する場合には、「導入」の各科目で4科目4単位を修得した言語とは異なる言語から、同一言語の選択1 a・bをセットで履修してください。	
		世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。	
		言語文化研究(ヨーロッパ) 1 言語文化研究(ヨーロッパ) 2	言語文化研究(アジア) 1 言語文化研究(アジア) 2	言語文化研究(アメリカ)			・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。	
	海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)				・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定されます。 ・海外語学短期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。	
			海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			

人間科学部専門科目一覧

心理学科専門科目一覧

科目名	単 位	配当 年次		○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位	
		心理	社会	心理	社会
心理学概論	2	1	1	○	#
臨床心理学概論	2	1	1	○	#
心理学データ解析基礎1(心理学統計法)	1	1		○	
心理学データ解析基礎2	1	1		○	
心理学基礎実験1(心理学実験)	2	1		○	
心理学基礎実験2	4	2		○	
心理学実験演習1	4	3		○	
心理学実験演習2	4	4		○	
心理学講読1	4	3		○	
心理学講読2	4	4		◎	
卒業論文	8	4		○	
知覚心理学1	2	23	23	◎	#
知覚心理学2	2	23	23	◎	#
認知心理学1(知覚・認知心理学)	2	23	23	◎	#
認知心理学2	2	23	23	◎	#
学習心理学1(学習・言語心理学)	2	23	23	◎	#
学習心理学2	2	23	23	◎	#
生理心理学1	2	23	23	◎	#
生理心理学2(神経・生理心理学)	2	23	23	◎	#
発達心理学1(発達心理学)	2	23	23	◎	#
発達心理学2	2	23	23	◎	#
社会心理学1	2	23	23	◎	#
社会心理学2(社会・集団・家族心理学)	2	23	23	◎	#
人格心理学1(感情・人格心理学)	2	23	23	◎	#
人格心理学2	2	23	23	◎	#
臨床心理学1(心理学的支援法)	2	23	23	◎	#
臨床心理学2	2	23	23	◎	#
犯罪心理学1(司法・犯罪心理学)	2	23	23	◎	#
犯罪心理学2	2	23	23	◎	#
心理学コンピュータ実習1	2	12		◎	
心理学コンピュータ実習2	2	12		◎	
心理学研究法	2	12		◎	
心理学データ解析応用1	1	23		◎	
心理学データ解析応用2	1	23		◎	
心理学の思想と歴史1	2	34	34	◎	#

科目名	単 位	配当 年次		○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位	
		心理	社会	心理	社会
心理学の思想と歴史2	2	34	34	◎	#
情報処理心理学実習1	2	34		◎	
情報処理心理学実習2	2	34		◎	
公認心理師の職責	2	1234		△	
人体の構造と機能及び疾病	2	1234		△	
関係行政論	2	1234		△	
基礎心理学特殊講義A	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義B	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義C	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義D	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義E	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義F	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義G	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義H	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義I	2	34	34	△	#
基礎心理学特殊講義J	2	34	34	△	#
心理学特殊講義A(障害者・障害児心理学)	2	34	34	△	#
心理学特殊講義B	2	34	34	△	#
心理学特殊講義C	2	34	34	△	#
心理学特殊講義D	2	34	34	△	#
心理学特殊講義E(福祉心理学)	2	34	34	△	#
心理学特殊講義F	2	34	34	△	#
心理学特殊講義G	2	34	34	△	#
心理学特殊講義H(健康・医療心理学)	2	34	34	△	#
心理学特殊講義I	2	34	34	△	#
心理学特殊講義J	2	34	34	△	#
精神病理学1(精神疾患とその治療)	2	34	34	△	#
精神病理学2	2	34	34	△	#
心理的アセスメント	2	34		△	
産業・組織心理学	2	34		△	
教育・学校心理学	2	34		△	
心理演習1	1	3		△	
心理演習2	1	3		△	
心理実習1	1	4		△	
心理実習2	1	4		△	

社会学科専門科目一覧

科目名	単 位	配当 年次		○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位	
		心理	社会	心理	社会
社会学原論1	2	1	1	#	○
社会学原論2	2	1	1	#	○
社会調査の基礎	2	1	1	#	○
調査設計と実施方法	2	1	1	#	○
データ分析法実習	2		1		○
多変量解析法実習	2		234		△
統計学実習	2		1		△
質的分析法	2		234		△
社会調査実習A	4		2		○
社会調査実習B	4		34		△
文献研究A	2		2		○
文献研究B	2		34		△
現代社会論1	2	234	234	#	◎
現代社会論2	2	234	234	#	◎
比較社会論1	2	234	234	#	◎
比較社会論2	2	234	234	#	◎
ネットワーク・メディア論1	2	234	234	#	◎
ネットワーク・メディア論2	2	234	234	#	◎
社会意識論1	2	234	234	#	◎
社会意識論2	2	234	234	#	◎
教育と社会1	2	234	234	#	◎
教育と社会2	2	234	234	#	◎
現代文化論1	2	234	234	#	◎
現代文化論2	2	234	234	#	◎
生活の社会学1	2	234	234	#	◎
生活の社会学2	2	234	234	#	◎
家族の社会学1	2	234	234	#	◎
家族の社会学2	2	234	234	#	◎
仕事の社会学1	2	234	234	#	◎
仕事の社会学2	2	234	234	#	◎
学びの社会学1	2	234	234	#	◎
学びの社会学2	2	234	234	#	◎
福祉の社会学1	2	234	234	#	◎
福祉の社会学2	2	234	234	#	◎
ケアの社会学1	2	234	234	#	◎
ケアの社会学2	2	234	234	#	◎
民俗学1	2	234	234	#	◎
民俗学2	2	234	234	#	◎
地域社会学A-1	2	234	234	#	◎
地域社会学A-2	2	234	234	#	◎
地域社会学B-1	2	234	234	#	◎
地域社会学B-2	2	234	234	#	◎
地域社会学C-1	2	234	234	#	◎
地域社会学C-2	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズA-1	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズA-2	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズB-1	2	234	234	#	◎
エリア・スタディーズB-2	2	234	234	#	◎

科目名	単 位	配当 年次		○：必修 ◎：選択必修 △：選択 #：自由選択修得要件単位	
		心理	社会	心理	社会
ポップカルチャー論	2	234	234	#	△
宗教学1	2	234	234	#	△
宗教学2	2	234	234	#	△
心の哲学	2	234	234	#	△
社会の哲学	2	234	234	#	△
経済学概論1	2	23	23	#	△
経済学概論2	2	23	23	#	△
現代経済論1	2	23	23	#	△
現代経済論2	2	23	23	#	△
社会政策論1	2	234	234	#	△
社会政策論2	2	234	234	#	△
社会運動論1	2	234	234	#	△
社会運動論2	2	234	234	#	△
社会保障論1	2	234	234	#	△
社会保障論2	2	234	234	#	△
日本経済史1	2	34	34	#	△
日本経済史2	2	34	34	#	△
ジェンダー史1	2	234	234	#	△
ジェンダー史2	2	234	234	#	△
自然地理学概論1	2	12	12	#	△
自然地理学概論2	2	12	12	#	△
地方自治論	2	234	234	#	△
国際協力論	2	234	234	#	△
多文化共生国際社会論	2	234	234	#	△
地球環境問題	2	234	234	#	△
社会学思想史	2	34	34	#	△
日本社会史	2	34	34	#	△
地域研究概論	2	34	34	#	△
日本史概説1	2	12	12	#	△
日本史概説2	2	12	12	#	△
アジア史概説1	2	12	12	#	△
アジア史概説2	2	12	12	#	△
欧米史概説1	2	12	12	#	△
欧米史概説2	2	12	12	#	△
言論法	2	234	234	#	△
ジャーナリズムの倫理	2	234	234	#	△
憲法1	2	23	23	#	△
憲法2	2	23	23	#	△
社会学特殊講義A	2	234	234	#	△
社会学特殊講義B	2	234	234	#	△
社会学特殊講義C	2	234	234	#	△
社会学特殊講義D	2	234	234	#	△
社会学特殊講義E	2	234	234	#	△
社会学特殊講義F	2	234	234	#	△
専門ゼミナールA	4		3		○
専門ゼミナールB	4		4		○
卒業論文	8		4		○

第4章

資格課程について

- I 教 職 課 程
- II 司書・司書教諭・学校司書課程
- III 学 芸 員 課 程
- IV 大学院教職課程
- V 科目等履修生

資格課程について

I. 教職課程

本学では、中学校および高等学校の「教育職員免許状」（以下「免許状」という）を取得することを希望する学生のために、教職課程を設置しています。

現在の法律では、原則として免許状を取得していないものは教職に就くことができませんので、将来教職に就く意思のある学生は、教職課程を履修し、免許状を取得してください。

本学で免許状を取得するためには、原則として3年間以上教職課程の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。教職課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。

また、修得科目・修得単位は学部・学科によって異なります。詳細については、履修初年度のガイダンスで配布する「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照してください。

なお、教職課程を履修する場合は履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。

取得できる免許状は次のとおりです。

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
人 間 科 学 部	心 理 学 科	社会	公民
	社 会 学 科	社会	地理歴史, 公民

※教員免許更新制（免許状更新講習）について

免許状には最長10年間の有効期限が設けられ、免許状を失効させないために、免許状取得要件を満たしてから10年毎に免許状更新講習を受講し、免許状の更新を行うことが義務付けられています。免許状更新講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。

Ⅱ. 司書・司書教諭・学校司書課程

司書課程は、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の資料室などで、資料（図書、雑誌、CD、DVD、官庁出版物、その他）を収集・整理し、これら資料を利用者に対し適切に提供する専門職（司書）の養成を目的としています。

司書教諭課程は、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職（司書教諭）の養成を目的としています。なお、司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭課程の履修と併せて、教職課程を履修し、教育職員免許状を取得しなければなりません。

学校司書課程は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理や提供および授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について、司書教諭と協働しながら従事する学校司書の養成を目的としています。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上、司書課程の授業を履修し、15科目30単位以上を修得しなければなりません。また、司書教諭については5科目10単位以上、学校司書については13科目26単位を修得しなければなりません。

司書、司書教諭、学校司書課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「**教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック**」も併せて参照してください。

なお、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程を履修する場合は履修初年度に各課程の受講料を納入する必要があります。

Ⅲ. 学芸員課程

学芸員課程は、博物館、美術館、歴史資料館、考古資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館、科学館等に勤務し、その事業の目的を達成するために、資料の収集、保管、展示および調査研究、その他これに関連する事業についての専門的事項を司る専門職員を養成することを目的としています。

本学で学芸員の資格を取得するためには、原則として2年間以上、学芸員課程の科目を履修し、13科目27単位以上を修得しなければなりません。

学芸員課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「**教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック**」も併せて参照してください。

なお、学芸員課程を履修する場合は履修初年度に、学芸員課程受講料を納入する必要があります。

IV. 大学院教職課程

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細は教務課資格課程事務室で確認してください。

V. 科目等履修生

在学中の単位不足等により本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は、科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし、科目等履修生となるためには、前年度の2月中旬～下旬に出願し、面接選考のうえ、合格した場合に限り許可されます。

なお、詳細については、二部事務課窓口（神田校舎）へお問い合わせください。

付 録

- I 専修大学履修規程
- II 専修大学定期試験規程
- III 定期試験における不正行為者処分規程

I 専修大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第5条第2項及び第16条第1項の規定に基づき、専修大学(以下「本学」という。)における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の種類)

第2条 授業科目の種類は、次のとおりとする。

- (1) 必修科目 当該学部・学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。
- (2) 選択科目 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する授業科目(選択必修科目及び必修履修科目を含む。)をいう。
- (3) 自由科目 履修することはできるが、修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

(履修方法)

第3条 各学部・学科並びに教職課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程及び学芸員課程(以下「資格課程」という。)において履修する授業科目は、入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い、学生本人が決定するものとする。

(単位数及び授業科目)

第4条 各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は、別表第1から別表第3まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

(履修登録)

第5条 授業科目の履修は、当該年度に履修する授業科目について、毎学年始めの履修科目登録期間に履修登録することにより行うものとする。

- 2 後期に履修する授業科目についても、原則として、前項の履修科目登録期間に履修登録するものとする。

(スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録)

第6条 スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「SWP学修ガイドブック」に定めるところによる。

(資格課程科目の履修登録)

第7条 教職課程科目は、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料、実習料等を納入することにより履修することができる。

- 2 司書課程科目及び司書教諭課程科目は、司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 3 学校司書課程科目は、学校司書課程を修了しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 4 学芸員課程科目は、学芸員の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。

5 資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

(履修上限単位数)

第8条 1年間に履修登録することができる履修上限単位数は、各学部・学科が別に定めるところによる。

2 履修上限単位数には、再履修科目の単位を含めるものとし、次に掲げる単位を含めないものとする。

(1) 海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位

(2) 資格試験により認定される単位

(3) 専修大学科目等履修生(附属高等学校生徒)として履修し、本学に入学した後、単位認定される授業科目の単位

(4) 資格課程科目として履修する授業科目の単位

(履修登録することができない授業科目)

第9条 経済学部、法学部及び商学部における転換教育課程、導入教育課程及び教養教育課程の授業科目並びに経営学部、文学部、ネットワーク情報学部及び人間科学部における教養科目、外国語科目の授業科目のうち外国人留学生のために開講する授業科目は、外国人留学生以外の学生は、履修登録することができない。

2 前項の授業科目を履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(再度の履修登録の禁止)

第10条 既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、再び履修登録することができない。

2 再び履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(重複した履修登録の禁止)

第11条 履修する年度において、同一の履修期間、曜日及び時限に行われる授業科目は、重複して履修登録してはならない。

2 重複して履修登録した場合は、いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

(履修登録の修正、削除、追加及び変更)

第12条 履修登録の修正、削除、追加及び変更は、次に掲げる期間及び授業科目(各学部・学科が指定する授業科目を除く。)に限り認めるものとし、当該期間以外の期間については、特別の理由があると認められる場合を除き、履修登録の修正、削除、追加及び変更は認めないものとする。

(1) 履修科目登録期間又は前期履修修正期間 全ての授業科目

(2) 後期履修修正期間 後期のみ開講する授業科目

2 あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については、原則として、履修クラスの変更を認めないものとする。

3 履修者制限が行われた授業科目で、一旦履修を許可されたものについては、原則として、その削除及び変更を認めないものとする。

(履修の中止)

第13条 履修を継続する意思のない授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、所定の履修中止申請期間に、所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

2 履修の中止については、次に定めるところにより取り扱うものとする。

- (1) 履修を中止した授業科目は、授業への出席、定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。
- (2) 履修を中止した授業科目の単位は、当該年度の履修上限単位数に含める。
- (3) 履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。
- (4) 履修を中止した授業科目は、GPA及び平均点に算入しない。
- (5) 履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は、履修中止申請を認めない。
- (6) 履修中止申請は、取り下げることができない。

(単位の修得)

第14条 履修登録を行わない授業科目については、単位を修得することができない。ただし、履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については、この限りでない。

(事務所管)

第15条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の専修大学履修規程は、平成31年度以後の入学者について適用し、平成30年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1 (第4条関係) 略

別表第2 (第4条関係) 略

別表第3 (第4条関係) 略

Ⅱ 専修大学定期試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条の規定に基づき実施する試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- (4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実施の時期を変更することがある。

- (1) 前期試験 7月～8月
- (2) 後期試験 1月～2月
- (3) 前期追試験 8月
- (4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 試験監督は、当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて補助者を加えることがある。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(試験委員)

第7条 試験の実施に際し、試験委員を置く。

- 2 試験委員は、試験の実施を統轄する義務と権限を有する。
- 3 試験委員は、教授会の承認を得て、学長が委嘱する。
- 4 試験委員は、試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- (1) 履修科目登録の手続
 - (2) 学費の納入手続
 - (3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号の一に該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号については、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

- (1) 学生証を携帯していない者
 - (2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - (3) 試験監督者の指示に従わない者
 - (4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、一部の試験については教務課窓口、二部の試験については二部事務課窓口に申し出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| (2) 就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| (3) 業務命令による出張又は超過勤務 | 所属長による証明書 |
| (4) 公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |
| (5) 天災その他の災害 | 被災を証明するもの |

- | | |
|---------------------|-------------------|
| (6) 二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| (7) 本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| (8) 交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| (9) その他当該学部長がやむを得ない | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |

理由と認めた事項
(成績評価)

第11条 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

2 前項の場合において成績評価の区分は、90点以上をS、85点以上90点未満をA+、80点以上85点未満をA、75点以上80点未満をB+、70点以上75点未満をB、65点以上70点未満をC+、60点以上65点未満をC、60点未満をFとする。

3 前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)を算出する。この場合において、グレード・ポイントは、Sを4.0、A+を3.5、Aを3.0、B+を2.5、Bを2.0、C+を1.5、Cを1.0、Fを0.0とする。

(成績発表)

第12条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第13条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- (3) 学生証を机上に提出すること。
- (4) 解答にさきだって、学籍番号及び氏名を記入すること。
- (5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- (6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- (7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- (8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第14条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- (2) 第9条に該当する者の答案
- (3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- (4) 不正行為に該当する者の答案
- (5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第15条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- (1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)

- (2) 答案を交換したとき。
- (3) カンニングペーパーを廻したとき。
- (4) カンニングペーパーを使用したとき。
- (5) 所持品（電子機器を含む。）その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- (6) 他人の答案を写したとき。（見た者・見せた者）
- (7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。（連絡した者・連絡を受けた者）
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- (9) 他人の学生証で受験したとき。（貸した者・借りた者）
- (10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- (11) 故意による答案無記名のとき。
- (12) 答案を提出しなかったとき。
- (13) 使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

（不正行為の確認）

第16条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

2 試験委員は、学生部委員の立ち合いのもとに、不正行為の事実確認を行う。

3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

（不正行為者の処分）

第17条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

（規程の改廃）

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

Ⅲ 定期試験における不正行為者処分規程

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第17条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- | | |
|---|--|
| (1) 代人受験（依頼した者・受験した者） | 2ヶ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (2) 答案交換 | 第1号に同じ |
| (3) カンニングペーパー廻し | けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (4) カンニングペーパーの使用 | 第3号に同じ |
| (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等） | 第3号に同じ |
| (6) 答案を写す（見た者・見せた者） | 第3号に同じ |
| (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者） | 第3号に同じ |
| (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用 | 第3号に同じ |
| (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者） | 第3号に同じ |
| (10) 偽名又は氏名抹消 | 第3号に同じ |
| (11) 故意による無記名 | 第3号に同じ |
| (12) 答案不提出 | 第3号に同じ |
| (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者） | けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。 |
| (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合 | 第1号から第13号に準じて処分する。 |

2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 不正行為者処分に関する事務取扱いは、教務課又は二部事務課が行う。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

